

国内外の産業動物衛生情報

2014 年 1 月～12 月

年月日	国内	海外
2014.12.31	●秋田県 PED 県北(小坂町) 3 農場 2014 年 県内発症計16件 1 飼養 14844 頭 母豚 1432 頭 発症 16 頭 死亡なし 2 飼養 18911 頭 母豚 1550 頭 発症 48 頭 死亡なし 3 飼養 20348 頭 母豚 1667 頭 発症 360 頭 死亡なし ●千葉県 豚流行性下痢(PED)発生(9, 10 例目) 特別防疫対策地域指定 9例目 (1)発生農場 1農場(県北部) (2)飼養頭数 1508 頭 (3)症 状 母豚 9 頭 灰色水様性下痢及びおう吐、哺乳豚 70 頭 黄色水様性下痢。死亡なし。 ※対応 香取市の発生農場周辺地域 豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく、特別防疫対策地域に指定 10 例目 (1)発生農場 1農場(県北部) (2)飼養頭数 2905 頭 (3)症 状 哺乳豚 280 頭に黄色水様性下痢。死亡なし。 ※当該農場は、9例目で指定した特別防疫対策地域内。千葉県の発生状況について (1)平成26年8月までの発生 111 例 153,582 頭発症 42,975 頭死亡 (http://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/pedchiba.html) (2)平成26年9月以降の発生 発生地 発症数 死亡数 1 例目 県北東部 180 0 2 例目 県北東部 10 0 3 例目 県北東部 1,920 0 再発生(*1) 4 例目 県北東部 855 67 5 例目 県中部 300 30 6 例目 県中部 205 60 7 例目 県中部 100 6 再発生(*2) 8 例目 県北東部 200 0 9 例目 県北部 79 0 10 例目 県北部 280 0 合 計 4,129 163 (*1):8月までの発生農場 111 例中、16 例目の農場での再発生 (*2):8月までの発生農場 111 例中、109 例目の農場での再発生 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 延岡市北側町 高病原性鳥インフルエンザ発生 1 例目 移動制限区域(半径 3km)内の清浄性確認検査終了、搬出制限区域(半径 10km)解除。 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ 宮崎市高岡市 高病原性鳥インフルエンザ発生 2 例目 遺伝子検査結果 H5N8 亜型確認。	
2014.12.30	●秋田県 PED 県北(小坂町) 3 農場 2014 年 県内発症計 16件 1 飼養 14844 頭 母豚 1432 頭 発症 16 頭 死亡なし	

	2 飼養 18911 頭 母豚 1550 頭 発症 48 頭 死亡なし 3 飼養 20348 頭 母豚 1667 頭 発症 360 頭 死亡なし ●千葉県 豚流行性下痢(PED)発生(9, 10 例目) 特別防疫対策地域指定 9例目 (1)発生農場 1農場(県北部) (2)飼養頭数 1508 頭 (3)症 状 母豚 9 頭 灰色水様性下痢及びおう吐、哺乳豚 70 頭 黄色水様性下痢。死亡なし。 ※対応 香取市の発生農場周辺地域 豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく、特別防疫対策地域に指定 10 例目 (1)発生農場 1農場(県北部) (2)飼養頭数 2905 頭 (3)症 状 哺乳豚 280 頭に黄色水様性下痢。死亡なし。 ※当該農場は、9例目で指定した特別防疫対策地域内。 千葉県の発生状況について (1)平成26年8月までの発生 111 例 153,582 頭発症 42,975 頭死亡 (http://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/pedchiba.html) (2)平成26年9月以降の発生 発生地 発症数 死亡数 1 例目 県北東部 180 0 2 例目 県北東部 10 0 3 例目 県北東部 1,920 0 再発生(*1) 4 例目 県北東部 855 67 5 例目 県中部 300 30 6 例目 県中部 205 60 7 例目 県中部 100 6 再発生(*2) 8 例目 県北東部 200 0 9 例目 県北部 79 0 10 例目 県北部 280 0 合 計 4,129 163 (*1):8月までの発生農場 111 例中、16 例目の農場での再発生 (*2):8月までの発生農場 111 例中、109 例目の農場での再発生 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 延岡市北側町 高病原性鳥インフルエンザ発生 1 例目 移動制限区域(半径 3km)内の清浄性確認検査終了、搬出制限区域(半径 10km)解除。 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ 宮崎市高岡市 高病原性鳥インフルエンザ発生 2 例目 遺伝子検査結果 H5N8 亜型確認。	
2014.12.29	●秋田県 PED 県北(小坂町) 3 農場 2014 年 県内発症計 16件 1 飼養 14844 頭 母豚 1432 頭 発症 16 頭 死亡なし 2 飼養 18911 頭 母豚 1550 頭 発症 48 頭 死亡なし 3 飼養 20348 頭 母豚 1667 頭 発症 360 頭 死亡なし ●千葉県 豚流行性下痢(PED)発生(9, 10 例目) 特別防疫対策地域指定 9例目 (1)発生農場 1農場(県北部) (2)飼養頭数 1508 頭 (3)症 状 母豚 9 頭 灰色水様性下痢及びおう吐、哺乳豚 70 頭 黄色水様性下痢。死亡なし。 ※対応	

	香取市の発生農場周辺地域 豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく、特別防疫対策地域に指定 10 例目 (1) 発生農場 1農場(県北部) (2) 飼養頭数 2905 頭 (3) 症 状 哺乳豚 280 頭に黄色水様性下痢。死亡なし。 ※当該農場は、9例目で指定した特別防疫対策地域内。 千葉県の発生状況について (1) 平成26年8月までの発生 111 例 153,582 頭発症 42,975 頭死亡 (http://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/pedchiba.html) (2) 平成26年9月以降の発生 発生地 発症数 死亡数 1 例目 県北東部 180 0 2 例目 県北東部 10 0 3 例目 県北東部 1,920 0 再発生(*1) 4 例目 県北東部 855 67 5 例目 県中部 300 30 6 例目 県中部 205 60 7 例目 県中部 100 6 再発生(*2) 8 例目 県北東部 200 0 9 例目 県北部 79 0 10 例目 県北部 280 0 合 計 4,129 163 (*1):8月までの発生農場 111 例中、16 例目の農場での再発生 (*2):8月までの発生農場 111 例中、109 例目の農場での再発生 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 延岡市北側町 高病原性鳥インフルエンザ発生 1 例目 移動制限区域(半径 3km)内の清浄性確認検査終了、搬出制限区域(半径 10km)解除。 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ 宮崎市高岡市 高病原性鳥インフルエンザ発生 2 例目 遺伝子検査結果 H5N8 亜型確認。	
2014.12.28	●秋田県 PED 県北(小坂町) 3 農場 2014 年 県内発症計 16件 1 飼養 14844 頭 母豚 1432 頭 発症 16 頭 死亡なし 2 飼養 18911 頭 母豚 1550 頭 発症 48 頭 死亡なし 3 飼養 20348 頭 母豚 1667 頭 発症 360 頭 死亡なし ●千葉県 豚流行性下痢(PED)発生(9, 10 例目) 特別防疫対策地域指定 9例目 (1) 発生農場 1農場(県北部) (2) 飼養頭数 1508 頭 (3) 症 状 母豚 9 頭 灰色水様性下痢及びおう吐、哺乳豚 70 頭 黄色水様性下痢。死亡なし。 ※対応 香取市の発生農場周辺地域 豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく、特別防疫対策地域に指定 10 例目 (1) 発生農場 1農場(県北部) (2) 飼養頭数 2905 頭 (3) 症 状 哺乳豚 280 頭に黄色水様性下痢。死亡なし。 ※当該農場は、9例目で指定した特別防疫対策地域内。 千葉県の発生状況について (1) 平成26年8月までの発生 111 例 153,582 頭発症 42,975 頭死亡	

	(http://www.pref.chiba.lg.jp/chikusan/pedchiba.html) (2) 平成26年9月以降の発生 発生地 発症数 死亡数 1 例目 県北東部 180 0 2 例目 県北東部 10 0 3 例目 県北東部 1,920 0 再発生(*1) 4 例目 県北東部 855 67 5 例目 県中部 300 30 6 例目 県中部 205 60 7 例目 県中部 100 6 再発生(*2) 8 例目 県北東部 200 0 9 例目 県北部 79 0 10 例目 県北部 280 0 合 計 4,129 163 (*1):8月までの発生農場 111 例中、16 例目の農場での再発生 (*2):8月までの発生農場 111 例中、109 例目の農場での再発生 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 延岡市北側町 高病原性鳥インフルエンザ発生 1 例目 移動制限区域(半径 3km)内の清浄性確認検査終了、搬出制限区域(半径 10km)解除。 ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ 宮崎市高岡市 高病原性鳥インフルエンザ発生 2 例目 遺伝子検査結果 H5N8 亜型確認。	
2014.12.26	●群馬県 赤城山南麓 PED 特別防疫対策地域指定 前橋市 富士見・大胡・宮城・粕川地域 桐生市 新里地域 ●群馬県 PED 通算 86 例目 繁殖農場(桐生市新里地域、新規発生) 分娩舎の母豚・子豚が初発 母豚 250 頭、PRRS(+)、3～4 週令の子豚を離乳・肥育の繁殖農場、廃用母豚も肥育農場経由で出荷するため屠場との接点なし 直近 9 か月間に種豚導入なし。 ●宮崎県 PED 新規発生 綾町大字北俣 県内では 10 農場(日南市 5、都城市 3、綾町 2)において PED の症状が確認 ●千葉県 PED 100 頭発症 6 頭死亡	
2014.12.24	●宮城県 PED 加美町中新田 1700 頭飼養、220 頭発症、10 頭死亡 ●鹿児島県 鳥インフルエンザ:ナベヅル、陽性 出水市荒崎地区で回収したナベヅル A型インフルエンザウイルス陽性反応	●エボラ出血熱 世界保健機関(WHO)ギニア、リベリア、シエラレオネにおいては、患者数 19,463 例、死亡者数 7,573 例 マリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカを含めた総数は、患者数 19,497 例、死亡者数 7,588 例
2014.12.23	●群馬県 PED 通算 85 例目 群馬県畜産試験場(前橋市富士見地域、新規発生) ●環境省 野鳥緊急調査チーム鳥インフルエンザ調査 岐阜県可児市 発見された野鳥のオンドリの死骸から、高病原性の鳥インフルエンザウイルス「H5N8 亜型」が検出されたことを受け、野鳥緊急調査チームを現地に派遣し、野鳥に異常がないか生息状況の調査開	
2014.12.中旬	●「人食いバクテリア」感染最悪 今年 263 人 「劇症型溶血性レンサ球菌感染症」(手足の壊死や意識障害を引き起こし死に至る恐れもある)	

	の今年の患者数が、12月中旬で263人となり、調査を始めた1999年以降最悪となった。東京(41人)、神奈川(19人)、愛知(18人)が多い。	
2014.12.22	●千葉県 1 農場 PED 市原市 ●静岡県三島市 PED 疑い 新規発生 県内では9月以降初(1494頭飼養、繁殖豚11頭発症(下痢、食欲不振)、死亡なし)	
2014.12.21	●鹿児島県 鳥インフルエンザ:カモ、陽性 →未検出(12/26) 出水市の出水平野で回収したカルガモ 遺伝子検査でA型インフルエンザウイルス陽性反応	
2014.12.20	●岐阜県 高病原性鳥インフルエンザ「H5N8型」 可児市 野鳥の死骸 高病原性鳥インフルエンザ「H5N8型」 死骸発見場所の半径10キロ圏内には21軒の養鶏農家 異常なし ●鹿児島県 鳥インフルエンザ:カモの死骸2羽、陽性 →未検出(12/25) 出水市の出水平野で回収したオナガガモ1羽(雄)、ヒドリガモ1羽(雌)の計2羽の死骸 遺伝子検査でA型インフルエンザウイルス陽性反応	
2014.12.19	●愛知県田原市 農林水産省が策定した「豚流行性下痢(PED)防疫マニュアル」に基づく「特別防疫対策地域」に指定 ●宮崎県 PED 新規発生 綾町大字北俣 再発 日南市萩之嶺 県内では9農場(日南市5、都城市3、綾町1)PED症状確認。 ●沖縄県 PED 新規発生 何城市15頭発症 死亡なし ●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)の発生【第63報】 鹿屋市(旧鹿屋市) 一貫経営:1農場	
2014.12.18	●千葉県 PED 1 農場 中部 飼養 6927 頭 母豚 637 頭 発症 300 頭 死亡 30 頭	●カナダ 高病原性鳥インフルエンザ H5N2 高病原性 ブリティッシュ・コロンビア州 ●韓国 口蹄疫(O型)発生 14 例目(2014.12 以降) 豚 忠清北道 清州(チョンジュ)の肥育農場 2,200 頭飼養 ●韓国 口蹄疫(O型)発生 4 件 豚 忠清北道 農場(1):1,788 頭(肥育農場)農場(2):5,000 頭(種豚農場)農場(3): 129 頭(種豚農場) 忠清南道 農場(4):1,500 頭(一貫農場)
2014.12.17	●宮崎の1000養鶏場 聞き取り調査 約1000の養鶏場に、異常がないか電話で聞き取り調査。養鶏場の消毒など防疫の徹底や、異常があった際の迅速な通報啓発。調査は17～19日、20日からは感染源の可能性がある野鳥の集まりやすい川がある地域を対象に、農場などの巡回。 ●鹿児島県 出水市 ツル 荒崎地区 回収ナベツル2羽の死骸からA型インフルエンザウイルスの遺伝子検出 「高病原性鳥インフルエンザウイルス」(H5N8亜型)(確定)	●エボラ出血熱 世界保健機関(WHO) エボラ出血熱発生状況 ギニア、リベリア、シエラレオネにおいては、患者数18,569例、死亡者数6,900例、マリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカを含めた総数は、患者数18,603例、死亡者数6,915例 ●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道曾坪(チュンピョン)郡1件 豚
2014.12.16	●農林水産省動物検疫所 輸出される生きた家きん及び家きん製品について、各国の受	●ブラジル ウェストナイル熱患者が初報告 http://www.forth.go.jp/topics/2014/12161054.html

	け入れについて詳細が確認できるまでの間、輸出検疫証明書の発行を一時停止。宮崎県において高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認されたことから ●三重県 PED 1 農場 志摩市 発症 113 頭 死亡なし ●宮崎県 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 延岡市北川(飼養羽数:4,000 羽)) 経緯 午前2時30分:防疫措置開始 午前9時25分:殺処分終了 午後7時30分:殺処分した鶏及び汚染物品の埋却終了。農場内の清掃・消毒完了。 【参考】 ※防疫措置作業動員数 前半:79 名(2:30～13:00)、後半:55 名(13:00～19:30) 3 防疫完了後の予定 農場の防疫措置完了により、10日が経過した後に実施する清浄性確認検査で陰性が確認されれば搬出制限区域(10km)を解除。さらに、21日経過後の1月7日午前0時に移動制限区域(3km)を解除。引き続き消毒ポイントでの車両消毒等の防疫措置徹底。	●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清南道天安(チョナン)郡 1 件 豚 3,500 頭(肥育経営)
2014.12.15	●長崎県 PED 1 農場 五島市 ●群馬県 PED 1 農場 中部 飼養 1300 頭 母豚 120 頭 発症 190 頭 死亡なし	●中国 口蹄疫(A 型)発生 牛 チベット自治区ラサ市チュシュル村の農場 86 頭飼養。17 頭発症 ●韓国 口蹄疫(O型)発生 :2 件 忠清北道鎮川(ジンチョン)郡 豚 ・飼育頭数 農場(1):706 頭(肥育経営) 農場(2):1,550 頭(一貫経営)
2014.12.12	●岐阜県可児市 回収したオシドリ死骸から鳥インフルエンザの陽性反応(12/20 環境省 H5N8 型高病原性鳥インフルエンザウイルス検出。 ●愛知県 PED 2 農場 田原市大久保町 飼養 3000 頭 発症 160 頭 死亡なし 田原市野田町 飼養 1400 頭 発症 10 頭 死亡なし	●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道鎮川(ジンチョン)郡 豚 飼育頭数:2,180 頭
2014.12.10	●豚の生レバー「禁止が妥当」 食品安全委が答申案 ●鹿児島県 出水市 ツル 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8 亜型)確定 12/7 死亡野生ナベヅル 1 羽 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8 亜型)	●米国 低病原性鳥インフルエンザ 米国ミシガン州 七面鳥農場 抗体陽性事例(H5N1 亜型及び H5N2 亜型に対する抗体陽性)確認
2014.12.8	●千葉県 PED 新規発生 北東部 1 養豚場 160 頭発生 死亡なし	●エボラ出血熱 WHO エボラ出血熱 ギニア、リベリア、シエラレオネにおいては、患者数 18,118 例、死亡者数 6,551 例、マリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカを含めた総数は、患者数 18,152 例、死亡者数 6,566 例 ●中国 パンダ、犬ジステンパー感染 4 頭うち 1 頭死 陝西省 野生動物研究施設飼育ジャイアントパンダ 4 頭が「犬ジステンパー」感染、うち 1 頭(8 歳メス)死亡。2 頭が危険状態。感染経路不明。 ●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道鎮川(ジンチョン)郡 豚
2014.12.7	鹿児島県 出水市 ツル 鳥インフルエンザ陽性 死亡野生ナベヅル 1 羽 遺伝子検査で鳥インフルエンザの陽性反応 今冬で 2 例目	

2014.12.6	●鹿児島出水ナベツル 2 羽の死骸 出水市の荒崎地区のツルのねぐらの水から鳥インフルエンザウイルス(H5N8)が検出	
2014.12.5		●エボラ出血熱 WHO ギニア、リベリア、シエラレオネにおいては、患者数 17,256 例(可能性の高い症例、確定症例、疑い症例を含む)、死亡者数 6,113 例、マリ、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカを含めた総数は、患者数 17,290 例、死亡者数 6,128 例が報告
2014.12.4	●東京・大田の鳥インフル、ウイルス不検出 環境省 11/26 回収ホシハジロ死骸を確定検査 鳥インフルエンザウイルスは検出されなかった ●鹿児島県 「豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく「特別防疫対策地域」の指定について」 平成 26 年 12 月 4 日、垂水市内の養豚農場において発生が確認され、本病の拡大リスクが高まったことから、国が策定した「豚流行性下痢(PED)防疫マニュアル」に基づき、垂水市全域を「特別防疫対策地域」に指定し、垂水市と連携して、防疫対応を強化。 ●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)の再発事例 垂水市 一貫経営農場 (12/4 現在) 志布志市志布志町 ・繁殖経営:1農場 曾於市大隅町 ・一貫経営:1農場 鹿屋市(旧鹿屋市) ・一貫経営:3農場 ・肥育経営:1農場 鹿屋市吾平町 ・肥育経営:1農場 垂水市 ・一貫経営:1農場 ●宮崎県 日南市南郷町 PED 再発生 県内 未沈浄化農場(都城市1、日南市3) ●愛知県 PED 1 農場 田原市 飼養 2000 頭 発症 7 頭 死亡なし	●カナダ HPAIV (H5N2)発生 カナダブリティッシュコロンビア州 ブロイラー種鶏場と七面鳥農場
2014.12.3	●愛知県 PED 1 農場 田原市 飼養 3100 頭 発症 30 頭 死亡なし ●鹿児島、衰弱カモはインフル陰性 鹿児島県 出水市 11/28 衰弱した状態で発見され、その後死んだヒドリガモ1羽の遺伝子検査の結果、鳥インフルエンザウイルスは検出されなかった。羽などに外傷があったが死因は不明。	●韓国 口蹄疫(O型)発生 忠清北道鎮川(ジンチョン)郡 豚 飼養頭数:15,884 頭 ・発症頭数:30 頭・淘汰数:574 頭・ワクチン接種頭数:豚 13 万頭
2014.12.2	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)の再発 2件 鹿屋市 肥育経営1農場 鹿屋市吾平町 肥育経営1農場 (12/2 現在) 志布志市志布志町 ・繁殖経営:1農場 曾於市大隅町 ・一貫経営:1農場 鹿屋市(旧鹿屋市) ・一貫経営:3農場 ・肥育経営:1農場	●スペインでのエボラ発生 WHO 終息宣言

	鹿屋市吾平町 ・肥育経営:1農場	
2014.12.1	●兵庫県 淡路島 鳥インフル陽性? アイガモ 南あわじ市 死亡アイガモ 簡易検査で鳥インフルエンザの陽性 ●青森県 PED 1 農場 県南 飼養 1061 頭 母豚 98 頭 発症 152 頭 死亡なし	
2014.11.29	●新潟県 PED 1 農場 燕市 飼養 3200 頭 母豚 294 頭 発症 30 頭 死亡なし	
2014.11.28	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)の再発事例 鹿屋市 一貫経営農場 (再発)(11/28 現在) 志布志市志布志町 ・繁殖経営:1農場 曾於市大隅町 ・一貫経営:1農場 鹿屋市(旧鹿屋市) ・一貫経営:3農場	●エボラ死者 7000 人に迫る WHO エボラ出血熱感染 ギニア、リベリア、シエラレオネの 3 カ国で感染者が 1 万 6169 人、うち死者は 6928 人
2014.11.27	●千葉県 PED 1 農場 北東部 飼養 12360 頭 母豚 1137 頭 発症 1920 頭 死亡なし	
2014.11.26	●愛知県 PED 2 農場 田原市①飼養 680 頭 発症 30 頭 死亡 7 頭 田原市②飼養 1600 頭 発症 250 頭 死亡 0 頭	
2014.11.23	●鹿児島県出水市 衰弱マナヅル1羽 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8 亜型)検出 発見場所から半径 10 キロ圏を野鳥監視重点区域に指定。圏内にある約 150 の養鶏場調査。ツルは 23 日発見、27 日死亡。	
2014.11.21	●愛知県 PED 1 農場 田原市 飼養 2700 頭 発症 22 頭 死亡 6 頭	
2014.11.20	愛知県 PED 1 農場 田原市 飼養 1900 頭 発症 30 頭 死亡なし ●群馬県 PED 1 農場 伊勢崎市 飼養 250 頭 母豚 23 頭 発症 20 頭 死亡 3 頭 ●千葉県長柄町 カモ類のふん(2/50 検体) カモ類糞 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8 型)検出 カモ類の糞 50 検体(無作為)中 2 検体で陽性 半径10キロ圏内で野鳥の監視強化、付近の養鶏場の立入検査	●インド ケーララ州 高病原性鳥インフルエンザ(H5 型)発生
2014.11.19	●宮城県栗原市 1 羽の死亡オオハクチョウ 鳥インフルエンザの陽性反応(簡易検査) 半径10キロ圏内で野鳥の監視強化 ●愛知県 PED 田原市 飼養頭数 2000 頭 発生頭数 30 頭 死亡なし	
2014.11.18	●愛知県< PED 64 例目 > 愛知県田原市野田町 飼養頭数等約 1,500 頭 発生頭数等:肥育豚(離乳豚) 10 頭 症状等:下痢。死亡なし ●鳥取県鳥取市 カモ類の糞便1検体 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5 亜型)検出	●エボラ感染 1 万 5000 人超 死者 5420 人 シエラレオネで急増 WHO 西アフリカ エボラ出血熱感染者数 1 万 5145 人。シエラレオネの首都フリータウンで感染者急増。死者数も 5420 人。 ●中国 江蘇省 豚 口蹄疫(O 型)発生

2014.11.17	●環境省と東京都 江東区 野鳥のホシハジロの死骸からA型の鳥インフルエンザの陽性反応。 動物衛生研究所で強毒性の高病原性の検査。都内の野鳥から鳥インフルエンザウイルスが検出は初。 死骸は13日に都に回収され、遺伝子検査で陽性と判明。周囲の野鳥からウイルスは検出されていない。回収場所から半径10キロを野鳥監視重点区域に指定、監視強化。ホシハジロはカモの一種で、ヨーロッパやシベリア南部で繁殖。冬になると日本を含むアジアに飛来し、湖や河川で越冬。	●エジプト 鳥フル 死者 南部アシュート 22 歳女性 H5N1 型の鳥インフルエンザウイルスに感染、死亡
2014.11.14	岩手県 PED 今秋以降初 宮古市、肥育農場 1346頭のうち35頭が下痢を発症。死亡なし。	●オランダ 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) ・発生数:1件(緊急報告) ・臨床徴候あり 【発生状況】 ・発生場所:ユトレヒト州 ヘーケンドルプの農場 採卵鶏・種鶏 150,000 羽飼養、1,000 死亡 149,000 羽淘汰 【疫学情報】 ・感染源:不明又は調査中 ・2014 年 11 月 16 日、発生農場の周囲 10km にサーベイランス・プロテクションゾーンが設置された ・この 10km のゾーンには 13 戸の農場がある ・感染農場の飼養動物は全て殺処分された ・10km のゾーンの中の全ての農場でスクリーニングを実施する予定 【対応】 ・ワクチン接種禁止 ・患者を治療対象としない ・野生宿主のコントロール ・淘汰 ・国内における移動制限 ・スクリーニング ・ゾーニング ・施設等の消毒実施 【診断】 ・PCR:陽性(2014 年 11 月 16 日、国立研究所) ●英国 高病原性鳥インフルエンザ(H5) ・発生数:1件(緊急報告) ・臨床徴候あり ・発生場所:ヨークシャーの農場 【動物種】繁殖用あひる 6,000 飼養 338 羽死亡 ・60 週齢の繁殖用あひる約 6,000 羽が屋内で飼養 ・死亡率のわずかな上昇と、徐々にではあるが著しい採卵低下が認められた ・臨床徴候から、鳥インフルエンザの感染前に細菌又は真菌の潜在的な感染が先行していた可能性がある 【疫学情報】 ・感染源:不明又は調査中 ・本発生に対応した疫学調査が開始され、初期情報より、当該群は通常から高い水準のバイオセキュリティを維持しており、前週に当該農場からの鳥や卵の移動はない 【対応】 ・隔離 ・国内における移動制限

		・スクリーニング ・ゾーニング(10kmの制限区域) ・施設等の消毒実施 ・ワクチン接種禁止 ・患畜を治療対象としない ・淘汰実施予定 【診断】 ・診断施設: 英国動植物衛生庁 (APHA) (OIE リファレンスラボラトリー) ・診断法: 赤血球凝集抑制試験: 陰性 (2014 年 11 月 16 日) - 塩基配列確認、RT-PCR: 陽性 (2014 年 11 月 16 日) - 静脈内接種病原性試験、ノイラミニダーゼ抑制試験: 実施中
2014.11.13	●長崎県 PED 疑い例(確定すれば、県内6月以来23例目) 五島市 下痢などの症状が出た子豚116頭のうち9頭死亡 ●島根県 高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8亜型) 島根県安来市において、11 月 3 日に回収されたコハクチョウの糞便 2 検体から、本日 20 時に高病原性鳥インフルエンザウイルス(H5N8亜型)が検出された。 「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」に基づき、半径 10km 圏内を「野鳥監視重点区域」に設定し、監視を強化。 ●東京都江東区 ホシハジロ死骸 A 型インフルエンザウイルスの陽性反応が確認 →高病原性鳥インフルエンザウイルス 陰性	
2014.11.12		●エボラ熱 死者 5000 人超 WHO 出血熱死者計 5160 人 疑い含感染者数は 1 万 4098 人 リベリアでやや減速、シエラレオネで感染勢い増す。
2014.11.11		●台湾でデング熱感染 1 万人超 台湾 2014 年のデング熱感染者数が 1 万 600 人。南部の高雄市が 1 万 100 人。死者は 13 人。
2014.11.10	●愛知県 PED 西尾市 63例目(57例目の再発)、飼養頭数約 4000 頭、発症頭数哺乳豚約40頭、死亡哺乳豚 4 頭。 ●鹿児島県 「豚流行性下痢(PED)防疫マニュアルに基づく「特別防疫対策地域」の指定について」 2014 年 11 月に入り、鹿屋市内の2養豚農場において再発生が確認され、本病の拡大リスクが高まったことから、国が策定した「豚流行性下痢(PED)防疫マニュアル」に基づき、鹿屋市全域を「特別防疫対策地域」に指定し、鹿屋市や地域防疫組織等と連携して、下記のとおり防疫対応を強化。 【対策】 ①畜産関連施設入退場時の消毒の徹底 ・施設で使用した前掛けや長靴、手袋等の消毒の徹底 ・施設に動力噴霧器が設置してあれば、石灰帯や車両消毒ゲートによる消毒のみでなく、荷台やタイヤハウス、運転室マット等の消毒を徹底 ②農場入場時の消毒 ・外部で車両消毒していても、入場時は必ず荷台等車両全体の消毒を徹底 ・必ず清潔な農場専用の衣服、長靴に交換する、手指を含む消毒の徹底など、人・物による病原体の侵入防止の徹底 ③飼養衛生管理基準の徹底	●韓国・全羅道 種鴨農場で鳥インフル1万2000羽を殺処分 全羅北道 金堤市金溝面の種鴨農場で高病原性鳥インフルエンザ(H5N8型)発生 鴨1万2000羽殺処分、周辺13カ所に車両統制所と消毒所設置。半径3キロ内の鶏・鴨農場6カ所は陰性。

	・野生動物の侵入防止の徹底 ・導入豚の隔離 ・死亡家畜の適正保管 ④母豚へのワクチン接種 ●鹿児島県 豚流行性下痢 再発 1農場(2013 年 12 月発生し、2014 年8月沈静化)、鹿屋市 一貫経営	
2014.11.8	●愛知県 PED 田原市 PED 新規農場発生、飼養頭数約 900 頭、発症頭数繁殖豚6頭、哺乳豚約20頭、死亡哺乳豚50頭。62例目。	
2014.11.7	●千葉県 PED感染、3カ月半ぶり確認 千葉 県北東部 2養豚場 豚計190頭PED感染。7月14日以来約3カ月半ぶり。 2養豚場は同じ会社経営。5日に1カ所で180頭、6日にもう1カ所で10頭の感染確認。死亡豚なし。県内ではPEDで15万3772頭感染、4万2975頭死亡。 ●鳥インフル新型消毒槽 熊本県など開発 車両用新型消毒槽開発。ゴム製の車止めで四方を囲って消毒液をためる方式で、従来型と比べて設置時間を短縮でき、費用も3分の1程度に抑えられる。新型消毒槽は、縦5m、横3m の囲いを作り、その中に消毒液をためて通過車両のタイヤなどを消毒。これまでは、道路にアスファルトで囲いを作っていたため完成まで12時間以上かかっていたが、新型は約2時間で設置できる。	
2014.11.5	●愛知県田原市 61例目(16例目 2014.4.13 初発)、飼養頭数約2,000頭、発症頭数哺乳豚約210頭、死亡頭数60頭。規農場発生、飼養頭数約 900 頭、発症頭数繁殖豚6頭、哺乳豚約20頭、死亡哺乳豚50頭。62例目。	●エボラ死者、4818 人に下方修正 WHO 西アフリカのエボラ出血熱について、死者数が 4818 人に修正発表。感染者数 1 万 3042 人に修正発表。
2014.11.4		●ドイツ H5N8 30,939 羽を飼養する七面鳥肥育農場で高病原性鳥インフルエンザ発生。 5,000 羽の群、1,880 羽斃死。
2014.11.3	●鹿児島県 豚流行性下痢 再発 1農場(2013 年 12 月発生し、2014 年2月沈静化)、鹿屋市 一貫経営	
2014.11.2		●中国で鳥インフル 感染者、今秋初確認 江蘇省 鳥インフルエンザ(H7N9 型)の感染者 1 人を新たに確認。今秋以降、H7N9 型の感染者初。患者は 58 歳の女性、発病の 2 週間前に市場で生きたニワトリをさばいてもらった。同省南京市内で治療を受けており、症状は重い。今回の確認で中国本土の感染者は計 441 人、死者は 161 人以上。
2014.10.31	●PED防疫マニュアル 農水省 PED防疫マニュアルをまとめた。 ・通報基準 生産者が獣医師や家畜保健衛生所に通報し、指導を受ける基準 (1) 複数の繁殖母豚の子で、哺乳豚の半数以上が水様性下痢、嘔吐(おうと)、または死亡した場合(周辺農場で発生している場合には、1頭の繁殖母豚の子で同様の症状が出た場合) (2) 同じ繁殖母豚が生んだ哺乳豚の1頭以上が水様性下痢、嘔吐、または死亡し、半日以内に同じ腹の哺乳豚か、他の繁殖母豚が生んだ哺乳豚に同じ症状が拡大した場合	

	(3) 同じ飼養管理をしている区画内で複数の繁殖豚か肥育豚が食欲不振になるか、下痢、嘔吐した場合。これらのどれか一つでも当てはまる場合には、すぐに通報し、発症した豚群と他の豚群を隔離するなどの防疫措置をとるよう求めた。 ・侵入防止・被害軽減策 基本は飼養衛生管理基準の順守。畜舎出入り口での消毒、衣服の更衣、長靴の履き替え、入場者の記録、作業者の衛生対策、導入豚の隔離豚舎での2～4週間にわたる健康観察、などを挙げた。 ワクチンの重要性も指摘。 ・強制馴致 獣医師の管理の下で行い、家畜保健衛生所に届け出るなど、厳しく条件を定めて限定的に認めた。ただ、手法が確立されておらず、他の疾病を拡大させるなどのリスクがあることから「原則的には推奨されるものではない」とする。 ・非発生農場への復帰 PEDの発生農場でも、症状が出ていない豚は出荷が可能。その場合に必要な健康確認や家畜保健衛生所への手続きも明記した。さらに、発生農場としての扱いから、非発生農場に復帰する要件を定めたのもポイント。(1)農場内全体で症状が見られなくなってから8週間経過した場合 (2)種豚供給農場と農場全体で症状が見られなくなってから4週間が経過し、PCR検査で陰性だった場合に発生農場は非発生農場に復帰。	
2014.10.30		●エボラ感染世界保健機関(WHO) ギニア、リベリア、シエラレオネ 患者数 13,676 例、死亡者数 4,910 例、ナイジェリア、セネガル、スペイン、アメリカを含めた総数は、患者数 13,703 例、死亡者数 4,920 例
2014.10.28	●厚労省 エボラ未承認薬 2 万人分備蓄 厚労省 エボラ出血熱国内対策 治療効果が期待される「アビガン錠」を 2 万人分備蓄。アビガンは抗インフルエンザ薬 ●海外邦人の対策協議 エボラ 閣僚会議 政府 西アフリカなどで感染が拡大するエボラ出血熱に関する初の閣僚会議を開く。国内対策とともに、海外で邦人が感染した場合の対応策を検討。政府は西アフリカなどで邦人が感染した場合、自衛隊の定員 200 人の大型機「KC767」を使った邦人患者の輸送を検討中。広い機内に患者の隔離スペースや医療設備を設けた上で、医師や感染症の専門家などを同乗させる方向で関係省庁と調整を進める。 ●狂犬病 検査強化 厚労省 台湾での流行受け 厚生労働省 犬や野生動物の調査。台湾で 2013 年、野生動物での流行が判明したのを受けた。全国に検査態勢を強化。2014 年 8 月、都道府県などに狂犬病検査の実施要領を通知。各都道府県で、極度の興奮や歩行不能などの異常行動や、人にかみつくなどの危害に及んだ犬や野生動物について、感染の有無を確認する。 ●鳥取県 豚流行性下痢 北栄町 新規 1 農場 70 頭発症	
2014.10.27	●リベリア滞在男性 発熱 羽田空港 エボラ熱含め検査 厚生労働省 東京・羽田空港に到着した乗客の 40 歳代男性が発熱の症状を訴え、その男性はエボラ出血熱が流行している西アフリカ・リベリアの滞在歴があり、エボラ出血熱に感染している可能性もあるとして、東京都新宿区の国立国際医療研究センター病院に搬送した。	●エボラ感染 豪 入国禁止 西アフリカからの渡航 オーストラリア エボラ出血熱が流行しているシエラレオネ、ギニア、リベリアなど西アフリカの国々を対象にビザの発給を一時停止。入国禁止措置は先進国で初。

2014.10.25		●エボラ感染 1 万人超 WHO エボラ出血熱感染者計 1 万 141 人。死者 4922 人。
2014.10.24	●ツル渡来 鹿児島県出水市 午前9時頃時点、ナベヅル約3500羽、マナヅル4羽、クロヅル1羽の渡来確認 ●豚の流行性下痢、防疫指針を公表 農林水産省 2013 年冬から今春にかけて豚の PED が広がったことを受け、感染拡大を防ぐための防疫マニュアルを公表。	
2014.10.23	●ツル渡来 鹿児島県出水市 午前3時50分頃、東干拓地でナベヅル9羽の渡来確認 午前4時頃時点、ナベヅル約700羽の渡来確認	
2014.10.22	●青森県 2 カ月半ぶり県内で PED 確認 八戸市養豚場 新たに豚流行性下痢(PED) 発生確認。県内 22 例目 肥育経営、1200 頭飼育、肥育豚に20頭下痢症状(死亡なし)	
2014.10.20		●エボラ熱大流行「初期対応失敗」WHO 4500 人超が死亡するなど西アフリカのエボラ出血熱 WHO が感染拡大初期の対応失敗を認める内部文書を作成。失敗要因 「無能な職員」「官僚主義」「信頼できる情報の不足」など「ほぼすべての関係者」が爆発的流行の「兆候を見逃した」。 ●スリランカ 狂犬病 1999 年から 2010 年までのヒトおよび動物の狂犬病有病率のデータをまとめ、スリランカでは、イヌが主要な感染動物であったが、マンガースなどの野生動物や、ウシやヤギなどの家畜での陽性率も高い。 Karunanayake D, et al. PLoS Negl Trop Dis 8(10): e3205. (2014) Twelve Years of Rabies Surveillance in Sri Lanka, 1999-2010. (スリランカ医学研究所と大分大学との共同研究) http://www.plosntds.org/article/info%3Adoi%2F10.1371%2Fjournal.pntd.0003205
2014.10.18	●愛知県 豚流行性下痢 再発 1農場(2014 年 9 月再発生、20 例目)、田原市 約 2000 頭飼養、哺乳豚約 50 頭下痢発症(死亡 20 頭)	
2014.10.17	●岩手県 豚流行性下痢 再発 1農場(16;例目農場)、住田町 5418 頭飼養、肥育豚 2 頭下痢発症(死亡なし)	●鳥インフルエンザ A(H5N1)に感染した患者の発生状況について http://www.forth.go.jp/topics/2014/10171028.html ●エボラ死者 4555 人 セネガル「終息」宣言 WHO 西アフリカのエボラ出血熱 疑い例を含む感染者数が 9216 人、死者数が 4555 人に達した。セネガルの流行は終息。42 日間で新たな感染者が出なかった。
2014.10.16	東京都 豚流行性下痢 188頭に症状 22頭死亡	
2014.10.15	●デング熱感染 18 都道府県の計 159 人に 厚生労働省 東京都の 10 代男性がデング熱に感染し、国内感染は 18 都道府県の計 159 人確認。	
2014.10.14	●狂犬病 実態調査へ 厚生労働省 人をかんでその後死んだ犬や野生動物、自治	●西ウエストナイル熱:米国 CDC 41 州で 1,444 例報告、49 名死亡。カリフォルニ

	体に引き取られ異常死した犬、事故死した野生動物などを自治体が検査する。野生動物では、アライグマ、タヌキ、アカギツネなどを優先的に調べる。今後年 1 回、国への報告を求める。 ●愛知県 豚流行性下痢 再発 1農場(2014 年 4 月発生、8 月沈静化)、田原市 約 2500 頭飼養、哺乳豚約 50 頭発症(死亡なし)	ア州で 487 例報告。 http://www.cdc.gov/westnile/statsMaps/preliminaryMapsData/histatedate.html ●西アフリカ エボラ出血熱 ギニア： 症例報告数 1,519、死者 862 名。 リベリア： 症例報告数 4,262、死者 2,484 名。 シエラレオネ： 症例報告数 3,410、死者 1,200 名。 上記 3 か国を合わせた症例数は 9,191、死者 4,546 人。 上記以外の国(ナイジェリア、セネガル、スペイン、米国) 症例数:25、死者数 9 人。
2014.10.13	愛知県 豚流行性下痢 再発 1農場(2014 年 4 月発生、9 月沈静化)、田原市 約 2200 頭飼養、哺乳豚約 60 頭発症(内 35 頭死亡)	
2014.10.12	鹿児島県 豚流行性下痢 再発 1農場(2014 年 4 月発生、6 月沈静化)、曾於地区、一貫経営	
2014.10.11	●東京都 豚流行性下痢 169 頭飼養、27 頭発症	
2014.10.10	●デング熱感染 感染者 158 名	
2014.10.8		●西アフリカ エボラ出血熱 患者数 8,033 例、死亡者数 3,866 例確認。 ●アメリカ エボラ出血熱 患者数 1 名(死亡) ●スペイン エボラ出血熱 患者数 1 名確認
2014.10.6	●宮大農学部が国際認証「グローバルGAP」取得 牛肉と牛乳 宮崎大農学部 牛肉と牛乳に関して、欧州などで普及する食品安全の国際規格「グローバルGAP」の認証を取得 対象は同学部附属フィールド科学教育研究センター・住吉フィールド(牧場)。畜産分野での取得は日本で初めて。 住吉フィールドは学生の畜産実習の拠点で、2013年度、他大学の教育にも活用できる優れた施設として文部科学省の「教育関係共同利用拠点」に認定。 認証取得は教育環境の整備の一環で、1頭当たりの面積が基準を満たしているか、薬の在庫はあるかなど、衛生面や安全性に関する約150項目をクリア 7月29日に欧州の審査員による認証を受けた。	
2014.10.5	●鹿児島県 豚流行性下痢 再発 1農場(2014 年4月発生、5月沈静化)、曾於地区、繁殖経営	
2014.10.1		●韓国 口蹄疫:埋却地の周辺地下水から細菌検出 2010 年末～2011 年初めにかけて、韓国で史上最悪規模の口蹄疫が発生してから 3 年がたった今、家畜を埋めた場所の周辺の地下水が病原性微生物に汚染(「家畜埋却地周辺の地下水の第 3 回病原性微生物調査」報告書)。 口蹄疫が発生した当時、約 348 万頭の豚や牛などを生き埋めにした全国 4799 カ所の埋却地で、今後 2 次汚染を引き起こしかねないという懸念が表面化。 2011 年初めに約 3000 頭の豚を埋めた京畿道利川市の埋却地内で検出された「豚アデノウイルス」が、2013 年 10 月の調査の際、埋却地から

		10メートル離れた地下水観測用井戸でも検出。また、埋却地から50メートル離れた地下水からは大腸菌をはじめとする病原性細菌検出。 2013年、「埋却されてから3年がたっても、埋却地内に細菌やウイルスなどの微生物の汚染源が依然として存在しており、周辺の地下水などに影響を与えている」(韓国微生物学会と大韓ウイルス学会は報告書)。 ●2019.1-9 韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8)213件(41市・郡)
2014.9.30	●BSE「48ヶ月」了承 農林水産省小委員会 検査対象の死亡牛を、現在の「月齢48ヶ月以上」引上了承。農相答申経て、特定家畜伝染病防疫指針を変更し、2015年4月から施行見込み。 ●「ジビエ」料理 業者向け指針 「厚労省」 厚生労働省 イノシシやシカといった野生鳥獣肉「ジビエ」料理を安心して食べるための衛生管理を目的に、狩猟者や食肉処理業者などを認定・登録する仕組みづくり提案。	
2014.9.29	●愛知県 豚流行性下痢 60例目、田原市 約2400頭飼養、哺乳豚約70頭発症(死亡なし)	
2014.9.28	群馬県 豚流行性下痢 再発 1例	●中国 広東省デング熱感染者 18倍 広東省 デング熱感染状況。9/28日に新たに1152人の感染確認。感染者累計11,867人、2013年の同じ時期の663人の約18倍。
2014.9.27	●肉用豚配合飼料 粉碎もみ米代替OK 兵庫県立農林水産技術総合センター 肉用豚に給与する配合飼料のトウモロコシを全量、粉碎もみ米に置き換えても、発育に影響がないことを確認。通常の配合飼料と比べた結果、飼料コストが1割削減でき、オレイン酸などの脂質も向上した。出荷までに1頭当たり約300キロのもみ米を消費することから、国策で増産を進める飼料用米の活用方法として提案。	
2014.9.25		●中国 広東省デング熱患者急増 中国広東省 デング熱患者数が1月から9月24日までの累計で7497人(うち3人死亡)。2013年同時期の10倍以上、23日は1日だけ881人確認。過去最多。
2014.9.24		●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8亜型)全羅南道 霊岩郡の肉用あひる飼養農場あひる 飼養羽数:21,000羽 症例数:1,200羽 殺処分等:死亡数1,200羽、殺処分数19,800羽
2014.9.23		●エボラ出血熱について 世界保健機関(WHO) エボラ出血熱は11月までに感染者が(現在の3倍の)2万人超に達する、と発表。死者数は西アフリカでこれまでに計2811人、感染者数は計5864人。医療従事者の感染者数は337人で、そのうち181人以上が死亡。
2014.9.22	●デング熱感染 厚生労働省 国内でデング熱に感染した患者が17都道府県の計142人発表	

2014.9.19	デング熱感染 厚生労働省 国内でデング熱に感染した患者が 17 都道府県の計 141 人発表	
2014.9.18	●千葉 PED沈静化の養豚場で再発生 豚流行性下痢(PED) 県北東部の沈静化養豚場 PED再発生。本養豚場 6月沈静化確認。 9月15日、56頭再発症(うち2頭死亡)。	●エボラ出血熱について 世界保健機関(WHO) 西アフリカにおけるエボラ出血熱の続発。発生 5335 例(可能性の高い症例、確定症例、疑い症例を含む)、死亡症例 2622 例確認。
2014.9.17	●ジビエ料理に厚労省衛生管理指針案 厚生労働省 シカやイノシシといった野生鳥獣肉「ジビエ」の料理の衛生管理指針案。中心部を 75 度で 1 分以上加熱し、生食なし。	●ベトナム 鳥インフル 1000 羽殺処分 中部クアンガイ省 鳥インフルエンザ(H5N6 型)発生 家禽類 1000 羽を殺処分。 ●9月中旬 【中国における発生状況】 農場, 生鳥市場, 野鳥生息地等を対象として, 定期的に実施しているサーベイランス(9月中旬実施分)において, 以下のとおり多数の高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出 H5N1 亜型ウイルス 16 件 H5N2 亜型ウイルス8件 H5N3 亜型ウイルス1件 H5N6 亜型ウイルス 24 件 H5N8 亜型ウイルス2件
2014.9.15		●中国 口蹄疫(A 型)の発生 チベット自治区 ラサ市 診断日:2014 年 9 月 22 日 牛 ・飼養頭数:33 頭 ・発症頭数:3 頭 ・殺処分 33 頭
2014.9.14		●ベトナム 高病原性鳥インフルエンザ (H5N6) 2 件 900 羽死亡、2,100 羽殺処理。
2014.9.12		●中国 高病原性鳥インフルエンザウイルス サーベイランス検査 全国各地の生鳥市場等計 51 箇所 H5N1 型 16 件 H5N2 型 8 件 H5N3 型 1 件 H5N6 型 24 件 H5N8 型 2 件
2014.9.8		●米国 :ウェストナイル熱 41 州 979 例報告、34 名死亡。カリフォルニア州で 310 例報告
2014.9.4	●群馬県 PED 発生 西部 飼養 800 頭 母豚 74 頭 発症 110 頭 死亡 0 頭	●ゾエティスの豚流行性下痢ワクチン 米農務省 条件付きゾエティス製 PED ワクチン承認
2014.9.1		●中国 鳥インフル(H5N6) ガチョウ 約 2 万羽感染 北東部で鳥インフルH5N6型、ガチョウ約 2 万羽が感染 中国北東部黒竜江省ハルビン ガチョウが鳥インフルエンザウイルス「H5N6 型」に感染し、約 18,000 羽近く死亡。20,550 羽発症。飼育場は封鎖・消毒、約 69,000 羽処分。 ●ロシア(高病原性 H5N1)2 件 アウトブレイク。436 羽死亡、261 羽殺処理。 ●南アフリカ(低病原性 H5N2)ダチョウ農場認。死亡なし。 ●ロシア 高病原性鳥インフルエンザ(H5N1 型) アルタイ地方 2 例発生
2014.8.28		●南アフリカ(低病原性 H5N2)ダチョウ農場認。死亡なし

2014.8.27		●米国(低病原性 H7) マガモとキジの飼育農場。48,000 羽疑い。
2014.8.23	●悪臭問題に農家苦慮 畜産経営へ苦情じわり増 2013 年に地域住民から苦情を受けた畜産農家は約 2000 戸に上り、前年より約 100 戸増。 苦情の6割を占めるのが悪臭。 2013 年の苦情 1970 農場(内訳「悪臭関連」61%、「水質汚濁関連」22.4%、「害虫発生」4.6%、「その他」12%) 苦情発生率 2013 年 2.2%、2012 年 2%、2011 年 2%、2010 年 2%、2009 年 1.9% 悪臭に関しては光触媒や土壌、軽石を活用した脱臭装置など開発中	●中国 鳥フル H5N6 型 黒龍江省ハルビン市の家きん飼養農場 家きん ・飼養羽数:86,674 羽・症例数:20,550 羽 死亡数 17,790 羽, 殺処分数 68,884 羽
2014.8.22	●米国からの家きん肉等の家畜衛生条件の改正 農林水産省 米国から輸入される家きん肉等の家畜衛生条件の改正(低病原性鳥インフルエンザ発生時の対応)について 2 国間合意。 ・米国における LPAI 発生時の輸入停止措置の対象地域を、現行の「州単位」から「発生農場から少なくとも半径 10km 以内の区域」に縮小	●米テキサス大のチーム マールブルグ病(出血熱) 発症発症 3 日後サルの治療成功。カナダの製薬会社テクミラ・ファーマシューティカルズと米テキサス大のチーム エボラ出血熱とよく似たマールブルグ病(出血熱) 発症発症 3 日後サルの治療成功。 ●「エボラ過小評価」 WHO 警告の声明 WHO 西アフリカで感染が広がっているエボラ出血熱の過小評価を警告声明。終息には 6～9 ヶ月かかる見通し。
2014.8.21		●コンゴ民主共和国 出血性胃腸炎流行 70 人死亡 WHO 北部で出血性胃腸炎が流行、592 人感染(70 人死亡)。
2014.8.20	●米国 トウモロコシ・大豆が大豊作＝価格値下がり 2014 年秋、米国で収穫トウモロコシと大豆が過去最高の豊作の見通し。市場価格は 15～30%程度値下がり。米農務省の予測、2014 年度(2014 年 9 月～2015 年 8 月)のトウモロコシの生産高は前年度比 0.8%増の 3 億 5683 万トン、大豆は 16.0%増の 1 億 385 万トン。遺伝子組み換え品種が 9 割以上。日本はトウモロコシのほぼ全量、大豆の 9 割以上を外国に依存。トウモロコシは主に牛、豚、鶏など家畜のエサ。大豆は豆腐や納豆、みその原料など。 ●鶏肉製品、インドネシアから輸入再開へ 10 年ぶり インドネシアから日本への鶏肉製品の輸出が 10 年ぶりに再開する見通し。 (背景)チキンナゲット市場では 2014 年7月、中国・上海の米系食肉加工会社が米マクドナルドなどに使用期限切れの原料を使った製品を供給していた問題が発覚。中国製品をタイ製品に切り替えるなど対応に追われている。	●南アフリカ(低病原性 H7N1) 鳥インフルエンザ:OIE 2 羽(ダチョウ)確認。
2014.8.18	●HACCP 認証牧場、38 中央畜産会 1 農場を HACCP 認証農場追加認証。全国の農場 HACCP 認証農場は 38 農場。畜種別内訳は牛 8(肉用 5、乳用 3)、豚 15、鶏(採卵 14、肉用1)。	●南アフリカ(低病原性 H5N2) 商業用ダチョウ農場 5 件 3,803 羽発症。
2014.8.15		●エボラ熱死者 1145 人 西アフリカ リベリアで急増 WHO 西アフリカ諸国におけるエボラ出血熱の死者数が 1145 人に達した。疑い例も含む感染者数は 2127 人。特にリベリアで死者や感染者が激増、8 月 12 日と 13 日だけで死者数が 58 人増の 413 人、感染者数が 116 人増の 786 人に達した。
2014.8.14		●韓国 AI 防疫体制強化へ 農林畜産食品部 高病原性鳥インフルエンザの

		事前予防強化と発生時の早期終息体制構築内容公表。家畜伝染病予防法や畜産法などを改正施行予定。
2014.8.12		●WHO エボラ死者 1000 人超 WHO 猛威を振るうエボラ出血熱による死者(含疑似)が西アフリカの 4 カ国で計 1013 人に達したと発表。「ザイール株」ウイルスの致死率は約 80%。
2014.8.11		●ベトナム(高病原性 H5N6) 1 件のアウトブレイク確認。キジ 498 羽死亡、60 羽殺処理。
2014.8.7	●エボラ出血熱に関する緊急事態の宣言 2014 年 3 月以降、西アフリカの 3 ヶ国(ギニア、リベリア、シエラレオネ)を中心にエボラ出血熱流行。 <エボラ出血熱について> http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/ebola.html <厚生労働省検疫所(FORCE)ホームページ> http://www.forth.go.jp/	●韓国農林畜産食品部鳥インフルエンザ疫学調査委員会結果公表 2014 年発生 HPAI(H5N8) 「野生鳥類(渡り鳥)から侵入し、人的、物的要因で伝播した可能性が高い」。 理由 ①過去に国内で H5N8 亜型のウイルスは確認されていない ②発生農場は、渡り鳥が飛来して越冬する西海岸地域に偏っている ③野生鳥類の死体や糞便などから H5N8 亜型のウイルスを広範囲に検出 ④発生農場と野生鳥類から同時期にウイルスが検出され、地理的にも近接しているなど ⑤同ウイルスは中国東部の家禽類で 2009 年から 11 年に流行したものと相同性が最も高く、中国東部の流行宿主と類似 ⑥渡り鳥の移動経路調査から、韓国と中国の間でマガモ、カルガモなどの往来確認
2014.8.6		●韓国 口蹄疫(O) 3 例目 慶尚南道陝川(ハプチョン)郡 豚 飼養頭数:1,375 頭(一貫経営)発症頭数:90 頭 殺処分 121 頭
2014.8.5	●食料自給率、4年連続で 39% 2013 年度の食料自給率(カロリーベース)が4年連続で 39% ●家畜排せつ物燃料発電施設増加 牛や豚などのふん尿を発酵させたメタンガスを燃料に発電する施設(発酵発電施設)を中心に、全国で89施設が整備 ●協同組合日本飼料工業会 山内孝史会長が、①飼料用米制度の法制化による政策の中長期安定化、②配合飼料原料としての飼料用米の国家備蓄、などを提言	
2014.8.4	●農水省 「豚流行性下痢(PED)の発生農場情報の共有に関する検討会」開催 ●国内において犬や野生動物を対象とした狂犬病検査の実施 全国的推進 2013 年、50 年以上狂犬病清浄国だった台湾で、野生動物のモニタリング調査の結果、イタチアナグマにおける狂犬病の流行が確認を受けて、日本国内において狂犬病検査の実施を全国的に推進。 <国内動物を対象とした狂犬病検査の実施について(通知)> http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou18/dl/140804-01.pdf <狂犬病について>	

	http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou10/	
2014.8.1	●総合警備保障(ALSOK) 家畜の防疫対策を支援 畜産農家と自治体を対象にした「家畜防疫対策支援サービス」開始。畜産農家がスマートフォンなどから家畜の異常を自治体に即時に連絡できるシステムを整える。家畜が伝染病に感染していることが判明した場合の交通規制の支援なども ALSOK が請け負う。消毒が必要な場合には消毒液の噴射機の調達から実際の消毒作業なども ALSOK の警備員が 24 時間、交代制で担当する。	●中国、米国産豚の輸入制限を解除 中国が米国産の生きた豚の輸入制限を4カ月ぶりに解除。米国が豚流行性下痢(PED)に対する検査基準を設定したことを受けた措置。中国は今後、米国産の生きた豚について、PEDV および類似のブタデルタコロナウイルスの検査結果が陰性であることの証明を求める。中国は世界最大の豚肉消費国で、日本とともに4月から輸入を規制していた。米国では1年前の PED 発生以降、800 万頭の豚が殺処分されている。日本は7月11日、審査基準を強化した上で輸入を解禁した。
2014.7.30	北米産豚の輸入基準強化 PED 7/11 米国およびカナダ産豚 豚流行性下痢(PED)ウイルスに係る懸念 輸入審査基準強化。当該豚の生産農場で過去12カ月間、PEDウイルスが検出されていないことの証明が必要ほか、出国検疫時のPEDウイルス検査で動物が陰性であることの証明も必要。	
2014.7.27		●韓国 口蹄疫(O)慶尚北道高靈郡 養豚場 2015 頭飼養、5-6 頭の蹄の脱落、口腔内潰瘍(農場主)
2014.7.26	●「家畜と農地の管理研究会」牛の放射線障害 確認されず 東京電力福島第一原発事故後、半径 20 キロ圏内で飼育されている牛を調査した。岩手大は、事故前後に生まれた牛を調べたところ、放射線による障害や病気は確認されなかった。	
2014.7.25		●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 型)発生 全羅南道咸平(ハムピョン)郡のあひる農場 ・飼養羽数:種あひる 12,000 羽, 肉用あひる 30,000 羽 ・殺処分:発生農場(42,000 羽)周辺 500mの農場(地鶏 2,000 羽)
2014.7.24	宮崎県 PED 疑い合計 81(+1)日南市	●韓国 口蹄疫(O)慶尚北道義城郡 養豚場 発症豚約 600 頭(約 1500 頭飼養)殺処分 周辺飼育豚にワクチン接種。 口蹄疫の発生は約 3 年 3 ヶ月ぶり。 (前回の最終発生 2011 年 4 月 21 日、2014 年 5 月に OIE 総会でワクチン接種清浄国となっていた) http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/douei/140724_1.html
2014.7.23	●農林水産省 BSE 対策 死亡牛検査について、2015 年度から検査対象の牛を現行の生後「24 ヶ月以上」から「48 ヶ月以上」に引き上げ方針 食料・農業・農村政策審議会部会に諮問 ●宮崎県 PED 疑い合計 80(+1)都城市	
2014.7.22	●高病原性鳥インフルエンザ疫学調査チーム 第 2 回検討会 農林水産省 熊本県の肉用鶏農場(4 月 13 日発生)高病原性鳥インフルエンザウイルスの侵入経路については、中国で複数のウイルスの遺伝子が集合して出現したと推測されるウイルス(H5N8 亜型)が、韓国を経由して侵入した可能性が高い。飼養衛生管理状況などから、人や飼料、飲水を介して鶏舎にウイルスが持ち込まれた可能性はきわめて低い。一方、発生農場は	●南アフリカ(低病原性 H5N2)ダチョウ農場認。死亡なし。

	山間部に位置し、周辺地域は野生動物や野鳥が多く生息する状況であることから、それらによりウイルスが持ち込まれた可能性は否定できない。	
2014.7.17	●日本 鳥インフルエンザ清浄国に復帰 農林水産省 熊本県の AI 防疫措置完了(4月16日)から3ヶ月となった。OIE に新たな鳥インフルエンザ発生がなかったとして清浄化を宣言。	
2014.7.14	●千葉県 PED 疑い合計 111(+2)I 市 ●米国 日本向けに輸出される豚の家畜衛生条件が改正された。 http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/c_i_america_swine.pdf ●千葉県 東庄町 養豚場から雌豚13頭(時価計約130万円)行方不明。香取署が窃盗事件調べ。	●米国 日本向けに輸出される豚の家畜衛生条件が改正された。 http://mailmag.maff.go.jp/c?c=3046&m=35622&v=60141b55 ●ラオス 低病原性鳥インフルエンザ(H5N6) 1件、2羽死亡、198羽殺処理。 ●デンマーク 日本向けに輸出される豚血粉の指定製造施設を掲載した。 (新規:1施設)・Daka Denmark A/S(施設番号:DK-05-3-pp-003)
2014.7.11	●千葉県 旭市内 豚18頭行方不明。旭署が窃盗事件調べ。 ●千葉県 PED 疑い合計 109(+1)I 市	
2014.7.10		●ドイツ(低病原性 H5N2)1羽死亡、1,731羽殺処理。
2014.7.9	●千葉県 PED 疑い合計 108(+1)I 市	
2014.7.8	●千葉県 PED 疑い合計 107(+1)I 市	●中国(低病原性 H7N9)生鳥市場のサーベイランスによって、2羽確認。30羽殺処理。 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Diseaseinformation/WI
2014.7.7	千葉県 PED 疑い合計 106(+1)A 市	
2014.7.4	●農水省 12月肉豚出荷は4.7%減 豚流行性下痢(PED)による6月の死亡頭数は9万186頭で、出荷するはずだった12月への影響は、発生がなかった場合と比べると4.7%減少予測。 今年4月からの累計では2%の減少、6月の試算から減少幅は0.4%広がった。 6月の死亡頭数は前月に比べ7846頭減ったが、年内では2番目に多い。 11月までの出荷分への影響は前回の試算と変わらない。	
2014.7.3	群馬県 PED 疑い合計 78(+1)	
2014.7.2	●埼玉県 PED 2例目 合計 2(+1) 秩父地域(飼養頭数:約900頭) 哺乳豚:下痢・嘔吐	
2014.7.1	●群馬県 PED 疑い合計 77(+1) ●農水省 2014年畜産統計(2014.2.1現在) 畜産統計(2014.2.1) 農林水産省 肉用牛の飼養戸数 5万7500戸 前年より3800戸(6.8%)減少 飼養頭数 256万7000頭 前年より7万5000頭(2.8%)減少 1戸あたりの飼養頭数 44.6頭 前年より1.5頭増加 乳用牛の飼養戸数 1万8600戸 前年より800戸(4.1%)減少 飼養頭数 139万5000頭 2万8000頭(2.0%)の減 1戸あたりの飼養頭数 75.0頭 1.6頭増加 豚の飼養戸数 5270戸 前年より300戸(5.4%)減少 飼養頭数 953万7000頭 14万8000頭(1.5%)減少	

	1戸あたりの飼養頭数 1809.7 頭 前年より 70.9 頭増加 母豚 88 万 5,300 頭(1.6%(1 万 4,400 頭)減少) 肥育豚 802 万頭(1.1%(8万 6,000 頭)減少) 1 戸当たりの飼養頭数 1,810 頭(70.9 頭増加) 肥育豚飼養戸数 4,750 戸(前回比 3.3%減少) 1,000～1,999 の階層で 2.1%増加 1～299 頭 13.7%減 2,000 頭以上 1.0%減少 採卵鶏の飼養戸数 2560 戸 前年より 90 戸(3.4%)減少 飼養羽数 1億 7234 万 9000 羽 前年より 11 万 1000 羽(1.0%)増加 1戸あたりの成鶏めす飼養羽数 5万 2200 羽 前年より 2000 羽増加 ブロイラーの飼養戸数 2380 戸で前年より 40 戸(1.7%)減少 飼養羽数 1億 3574 万 7000 羽 前年より 412 万 3000 羽(3.1%)増加 1戸あたり飼養羽数 5万 7000 羽で前年より 2600 羽増加	
2014.6.30	●熊本県 高病原性鳥インフルエンザ防疫対策マニュアル改定 指揮機能を強化し人員確保、資材の備蓄の見直し、最大10万羽規模の対応に備える。 http://www.pref.kumamoto.jp/soshiki/73/hpai.html ●群馬県 PED 疑い合計 76(+2)	
2014.6.28	●千葉県 PED 疑い合計 105(+1)S 市	
2014.6.27	農林水産省動物検疫所 米国から日本向けに輸出される豚血粉の家畜衛生条件が一部改正。 米国家畜衛生当局は、次の事項を証明しなければならない。 ●日本向けに輸出される豚血粉は、噴霧乾燥機を用い、少なくとも80℃の加熱処理による噴霧乾燥が行われていなければならない。 ●日本向け豚血粉については、日本到着時に製造後少なくとも6週間経過したものでなければならない。 動物検疫所ホームページ http://www.maff.go.jp/aqs/hou/require/pdf/us_pork_blood_powder_ad.pdf	●世界保健機関(WHO) 2003 年～2014 年 6 月 27 日時点 鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルスに感染したと確定診断された患者は、15 か国から 667 人、このうち 393 人が死亡。 http://www.forth.go.jp/topics/2014/07081235.html
2014.6.26		●中東で流行 マーズ(MERS)コロナウイルス患者の報告が 2014 年 4 月以降急増。感染源の一つとして、ヒトコブラクダが示唆されている。その鼻の粘膜や生乳からウイルスが検出されている。
2014.6.24	●群馬県 PED 疑い合計 74(+3)	
2014.6.23	●農林水産省動物検疫所 ルーマニアにおいて牛海綿状脳症(BSE)の発生が確認されたことから、同国からの牛、めん羊及び山羊並びにこれらの動物由来の肉製品等の輸入停止。 ●群馬県 PED 疑い合計 71(+1) ●千葉県 東庄町 養豚場で豚約20頭行方不明。香取署が窃盗事件調べ。	●中国 口蹄疫(A型)江蘇省 宿遷市 豚 ・飼養頭数:9 頭 ・症例数:3 頭 ・淘汰数:9 頭 ・対応:淘汰, 国内における移動制限, 施設等の消毒実施, 発生に対応したワクチン接種を実施 ・感染源:不明, 調査中
2014.6.20	●千葉県 PED 疑い合計 104(+1)K 市 ●厚生労働省 豚のレバー提供禁止へ 厚生労働省・乳肉水産食品部会・専門家調査会 豚のレバー(肝臓)などの提供を禁止示唆。	

	●千葉県 PED 48農場で沈静化。PED 発症計12万1217頭、死亡豚3万5869頭。	
2014.6.19	●宮崎県 PED 合計 79(+1) 都城市御池町 ●千葉県 PED 疑い合計 103(+1)N 市	
2014.6.18	●千葉県 PED 疑い合計 102(+1)K 市	
2014.6.17	●千葉県 PED 疑い合計 101(+1)T 町	
2014.6.13	●群馬県 PED 疑い合計 70(+1)	●南アフリカ(低病原性 H7N7) 2013 年 2 月から継続中。今回新たに 2 件のアウトブレイク確認(ダチョウ)。215 羽死亡。 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Diseaseinformation/WI
2014.6.12		●米国 4 人目のヤコブ病患者 BSE が原因とされる変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の 4 人目の患者が出た。患者は 5 月にテキサス州で死亡。米国では 2006 年以来。
2014.6.11	●宮崎県 「豚流行性下痢」 5/22 以降発生なし。沈静化の傾向。死亡子豚約 29000 頭の被害約 7000 万円と試算。	
2014.6.10	●愛知県 PED 疑い 合計 59(+1) 59 例目 豊橋市 約 1,000 頭飼養、発症:肥育豚約 5 頭(下痢)、死亡なし ●群馬県 PED 疑い合計 69(+1)	
2014.6.9	●千葉県 PED 疑い合計 100(+1)Y 市(+1) ●群馬県 PED 疑い合計 68(+1)	●EU、豚流行性下痢感染拡大で飼料の輸入規則強化 EU欧州委員会 米国で「豚流行性下痢(PED)」が拡大し、子豚数百万頭が死亡している事態を受け、飼料が感染源の可能性があるととして、豚飼料に使用される豚の血液製品の輸入規則強化を承認。豚の血液は、乾燥状態で飼料に添加され、補助たんぱく質として子豚に与えられている。強化された規則では、豚の血液を80度で過熱した後、PEDが死滅したことを確認するため6週間室温で保存することが義務付けられる。フランスが検討した、豚を使用した製品の禁輸措置は、今回は盛り込まれなかった。米国の製造業者は温度の基準は満たしているが、保存期間は現在14日間。PEDは1年前に米国で発生し、同国の豚の10%以上が死亡。カナダ、メキシコ、日本でも発生している。米国は世界最大の豚肉輸出国。PEDにより今年の豚肉製品生産が7%減少する可能性を試算した。政府試算は2%。米農務省国際動植物検疫課(APHIS)は、規則の透明性や発効時期などについてEUと協議する。 ●ロシア 口蹄疫(O型)続発 沿海地方 2箇所 で口蹄疫発生
2014.6.8	●千葉県 PED 疑い合計 99(+1)C 市(+1)	
2014.6.6	●千葉県 PED 疑い合計 98(+1)C 市(+1) ●群馬県 PED 疑い合計 67(+1) ●鹿児島県 合計:169 農場(+1 農場) 肝属地区 発生農場のうち 136 農場で沈静化を確認(南薩 14, 北薩 4, 始良 2, 曾於 31, 肝属 84, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(6 月 3 日集計時点) 発症: 251,032	

	頭(繁殖:26,043, 肥育:130,273, 子豚:94,716)、死亡: 50,327 頭(ほぼ全て子豚)	
2014.6.5	●群馬県 PED 疑い合計 66(+1)	
2014.6.4	●群馬県 PED 疑い合計 65(+2)	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 4 例 感染者報告。1 名死亡、1 名重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_06_10_h7n9/en/
2014.6.3	秋田県 合計 11(+1) 県北地域 3715頭を飼育 発症 :母豚6頭、子豚230頭。	●サウジアラビア 中東呼吸器症候群(MERS)コロナウイルスの感染者が新たに 113 人確認。感染者は計 688 人。
2014.6.2	●千葉県 PED 疑い合計 97(+3)C 市(+1)、T 町(+2) ●群馬県 PED 疑い合計 63(+1) ●群馬県 伊勢崎市 ワクチン接種費補助 市内養豚場全母豚約1750頭へのワクチン接種費用の補助と消毒用消石灰の配布実施。今年4月1日以降に購入したワクチンについて半額を補助。消石灰の配布は豚舎がある養豚農家18戸が対象で、1戸当たり約200キロ分予定。	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 1 例感染者、発症、重症。 http://www.who.int/csr/don/2014_06_24_avian_influenza/en/
2014.5.31	群馬県 PED 疑い合計 62(+1)	
2014.5.30	●千葉県 PED 疑い合計 94(+2)K 市(+1)、T 町(+1) ●群馬県 PED 疑い合計 61(+2) ●自民党農林水産戦略調査会、農林部会、畜産・酪農対策小委員会 PED対策 ①防疫対策の徹底 ②ワクチンの円滑な流通 ③感染経路の究明 ④発生農家の経営安定対策 ●宮城県 合計 15(+1) 北部、飼養約 2,100 頭、発症母豚30頭(食滞)、肥育豚20頭(下痢)、子豚 200 頭(下痢)、死亡なし ●北海道 PED 疑い合計 19(+2) オホーツク管内・大空市 500 頭飼養、繁殖豚 1 頭(下痢)、哺乳豚 92 頭発症(下痢・嘔吐)	●ロシア 口蹄疫(O 型)続発 沿海地方 3箇所 で口蹄疫発生
2014.5.29	●青森県 PED 疑い合計 20(+2) 19 例目 三戸町 一貫経営(5,565 頭飼養)、症状:694 頭(嘔吐、下痢)、死亡なし 20 例目 おいらせ町 繁殖(9,966 頭飼養)、症状:400 頭(嘔吐、下痢)、死亡なし ●茨城県 合計:8 農場(+1 農場) 鹿行地域 約 1300 頭飼養(PED ワクチン 2 回接種)、繁殖豚・哺乳豚 176 頭発症(嘔吐、下痢) ●本州でエキノコックス感染 寄生虫エキノコックス 本州で拡大兆候。北海道外でも感染の報告。4 月には愛知県で野犬のふんから卵を検出。	
2014.5.28	●鹿児島県 合計:168 農場(+1 農場) 曾於地区 ●三重 17 例目 伊勢市 発症子豚14頭、肉豚3頭、繁殖豚4頭、うち子豚2頭死亡	
2014.5.27	●秋田県 合計 10(+1) 県北、飼養 4,837 頭、発症 : 400 頭(哺乳豚、下痢) ●千葉県 PED 疑い合計 91(+1)A 市 ●群馬県 PED 疑い合計 59(+1)	
2014.5.26	●千葉県 PED 疑い合計 90(+3)Y 市、T 町(+2) ●山形県 PED 疑い合計 4(+1)村山地方 養豚場 豚653頭発症(嘔吐など)、このうち子豚29頭死亡	●WHO シエラレオネ エボラ熱 西アフリカ、シエラレオネ、エボラ出血熱感染確認。ギニアやリベリアとの国境沿いの地域

	●農水省消費・安全局、動物衛生研究所 国内に輸入された米国産の動物性加工たんぱく(豚血漿)について、PED ウイルスの遺伝子検査で陽性を示した検体があったものの、子豚を使った検査で豚を感染させる能力はないことを確認。 ウイルスの遺伝子検査では、動物検疫所が3、4月に輸入された228トンからサンプルを抽出してPCR法で調べた結果、陽性反応が出たものがあった。それを受けて農研機構・動物衛生研究所で、陽性の豚血漿を5日齢の子豚に経口投与して試験。22日間飼育し、ウイルスの抗原と抗体、遺伝子を検査したところ、いずれも陰性で、感染能力はないと確かめた。 ●群馬県 PED 疑い合計 58(+3) ●高崎市 市内の全母豚へのワクチン接種代補助と全養豚農家を対象にした消石灰の無償配布開始。 ワクチン接種代補助を必要とする母豚約3400頭への接種代(1回500円)の3分の1補助。消石灰の無償配布は33戸の養豚農家が対象で、1戸当たり200キロ分。各農家で伝票などを保管してもらい、年度末に精算する。予算額は計140万円。 ●前橋市 全母豚へのワクチン接種費用の補助と全養豚農家への消毒用消石灰の配布実施。 ワクチン接種費用の補助は市内の母豚約1万8千頭を対象とし、半額を補助。病原体の進入を防止する消石灰の配布は市内の養豚農家約100戸が対象で、1戸当たり約200キロ分を予定している。予算額は計1千万円。 ●厚生労働省 新型コロナウイルス(MERS) 検査強化 最近ではラクダが主な感染源? 中東を中心に感染が広がる新型コロナウイルス(MERS)の患者数が今年4月以降急増。中東諸国からの帰国後の感染が、欧州だけでなく米国でも確認された。世界保健機関によると、2012年春から今年3月末までの2年間の世界の患者数は206人だったが、4月から5月23日までの2ヶ月足らずで429人の感染確認。感染源は当初不明だったが、最近ではラクダが主な感染源との見方が強まり、生乳を飲み感染する可能性も指摘。 このため厚労省は今月、医療機関を受診した中東からの帰国のうち、 ①38度以上の高熱と重い呼吸器症状 ②軽症でも現地の医療機関を訪れたり、ラクダとの接触や無殺菌乳を飲んだことがあったりする などの場合、確定検査や同省への情報提供を自治体などに求める通達を出した。	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 4 例感染者。3 名重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_05_28_h7n9/en/
2014.5.25	●千葉県 PED 疑い合計 87(+1)T 町	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 1 例感染者、発症、6 月 5 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_06_18_avian_influenza/en/ ●ロシア 口蹄疫(O 型)続発 沿海地方 養豚場(初発農場から 7 km)口蹄疫(O 型)発生
2014.5.24	●千葉県 PED 疑い合計 86(+2)Y 市、T 町	
2014.5.23	●青森県 PED 疑い合計 18(+1) おいらせ町 ●千葉県 PED 疑い合計 84(+1)T 町 ●群馬県 PED 疑い合計 55(+2) ●豚肉 2 割高 豚肉の卸売価格は、2013 年 5 月より 2 割以上高く、食品メ	●南極 鳥インフル「H11N2 型」 ペンギン感染 南極大陸 ペンギン 鳥インフルエンザウイルス「H11N2 型」初検出 研究チームは 2013 年 1～2 月に南極半島の 2 カ所で、計 301 羽のアデリーペンギンからふんなどの検体を、うち 270 羽から血液を採取しオ

	ーカーや外食産業にも影響が広がっている。平均卸売価格(東京、大阪市場、5月23日時点)は1キログラムあたり607円	ーストラリアで検査、8羽からウイルスを検出した。確認されているウイルスの遺伝子情報と比較した結果、いずれのものとも異なっていた。
2014.5.22	●PED 拡大で緊急要請 全国知事、養豚農家への経営支援やワクチンの安定供給などを農相に緊急要請 ●愛知県 PED 疑い 合計 58(+1) 58 例目 田原市 約 5,500 頭飼養、発症:肥育豚(下痢)、死亡なし ●宮崎県 合計 78(+1) 小林市野尻町 ●千葉県 合計 83(+5) A 市、Y 市(2)、T 町(2) ●群馬県 PED 疑い合計 53(+4)	●メキシコ 2013 年 7 月 30 日から 2014 年 5 月 22 日まで、17 州) 発生、豚飼養頭数(1600 万頭)のうち、発生率は 1%以下 2013 年 8 月から 2014 年 5 月まで 19 州(2309 件)RT-PCR 試験で約 30%が PED 感染陽性
2014.5.21	●群馬県 PED 疑い合計 49(+2)	
2014.5.20	●茨城県 合計 7(+1) 県央、飼養 1,500 頭、発症 335 頭: (母豚(食欲不振、嘔吐)、哺乳豚(下痢)、11 頭死亡 ●秋田県 合計 9(+1) 県北、飼養 3,342 頭、発症 : 533 頭(母豚 27 頭(食欲不振 27 頭)、哺乳豚 506 頭(下痢 506 頭)) ●千葉県 PED 疑い合計 76(+1) 県北、1,993 頭飼養、発症:哺乳豚 130 頭(黄色水様性下痢)、死亡なし ●群馬県 PED 疑い合計 34(+2)	
2014.5.19	●山梨県 計 3 件(+1) 富士・東部、約 3900 頭飼養、発症 子豚 336 頭(下痢、嘔吐)、内 2 頭死亡 ●群馬県 PED 疑い合計 47(+3) ●京都 感染牛を丸ごと封じ込め「世界初」 口蹄疫などの伝染病で殺処分した家畜を焼却場などへ輸送する際にウイルスを封じ込めたままにできる「防疫バッグ」を開発した。牛1頭を丸ごと輸送できる大型家畜用の実用化は世界初。バッグは、殺処分された家畜を入れた内袋を熱で溶かして密封し、縫い目のない強固な外袋で包んでつり上げる仕組みで、そのまま焼却可能。ウイルスを通過させないフィルターを付け、中で発生するガスを排出できる。また、小さくたためるのでかさばらずに備蓄できることが特徴。口蹄疫にかかった牛や豚などの大型家畜の処分は、その場での埋却が多い。しかし、大規模農場以外は場所の確保が難しく、離れた埋却地や焼却場までの安全な輸送手段が課題だった。このため、府が大手テントメーカーの太陽工業(本社・大阪市)にバッグの共同開発を提案。	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 4 例感染者。3 名重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_05_22_h7n9/en/
2014.5.17	●秋田県 合計 8(+1) 県北、飼養 10,652 頭(母豚 754 頭、哺乳豚 1,462、肉豚 8,436)、発症 : 57 頭(母豚 9 頭(下痢 8 頭、嘔吐 1 頭)、哺乳豚 48 頭(下痢 48 頭)) 累計 発症頭数 2,894 頭、死亡 244 頭)	
2014.5.16	●千葉県 PED 疑い合計 75(+1) 県北、1482 頭飼養、発症:哺乳豚 120 頭(黄色水様性下痢、嘔吐)、死亡なし ●BSE 対策、緬山羊の検査廃止へ 厚生労働省部会、月齢 12 ヶ月以上の羊と山羊の食肉処理時に実施している BSE 検査を廃止方針決定。今後、厚労省が内閣府の食品安全委員会にリスク評価を諮問、答申を得た上で正式決定。国内では、緬山羊で BSE 感染は未確認。海外では、山羊がフランス(2005 年)と英国(09 年)で計 2 例。羊の感染例はない。	

2014.5.15	●愛知県 PED 疑い 合計 57(+1) 57 例目 西尾市 ●千葉県 PED 疑い合計 74(+3)A 市、K 市、T 町 市町 発生件数 旭市 46 銚子市 10 東庄町 7 香取市 4 成田市 2 館山市 1 匝瑳市 1 木更津市 1 君津市 1 八街市 1 計 74 ●群馬県 PED 疑い合計 41(+7)	
2014.5.14	●千葉県 PED 疑い合計 71(+1)A 市 ●北海道 PED 疑い合計 13(+2) 12 例目 胆振管内・安平町 3,706 頭飼養、哺乳豚 400 頭、 肥育豚 40 頭、繁殖豚 40 頭発症(下痢・嘔吐) 13 例目 十勝管内・帯広市 3,720 頭飼養、哺乳豚 100 頭、 肥育豚 22 頭、繁殖豚 65 頭発症(下痢・嘔吐) ●鹿児島県 合計:167 農場(+1 農場) 曾於地区 発生農場のうち,112 農場で沈静化を確認(南薩 13, 北薩 2, 始良 2, 曾於 17, 肝属 77, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内 のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(5月13日集計時点)発症: 227,423 頭(繁殖:22,796, 肥育:118,705, 子豚:85,922)、死 亡: 44,345 頭(ほぼ全て子豚) ●茨城県 計 6 件(+1)県央、使用 1500 頭、発症:母豚 23 頭 と哺乳豚 150 頭(下痢、嘔吐)、子豚約 90 頭死亡	
2014.5.13	●千葉県 PED 疑い合計 70(+4)T 町、K 市、A 市、K 市 ●宮崎県 合計 77(+1) 日南市 ●愛知県 PED 疑い 合計 56(+3) 54 例目 田原市 約 2600 頭飼養、発症哺乳豚約 200 頭(嘔 吐、下痢)、死亡なし 55 例目 田原市 約 150 頭飼養、発症肥育豚約 150 頭(嘔 吐、下痢)、死亡なし 56 例目 田原市 約 290 頭飼養、発症哺乳豚約 60 頭(嘔 吐、下痢)、死亡なし ●群馬県 PED 疑い合計 34(+2)	
2014.5.12	●青森県 県内すべての養豚農場や畜産関連施設計 130 カ所に消毒剤を無料配布 ●千葉県 PED 疑い合計 66(+1)T 町 ●北海道 PED 疑い合計 11(+1) 胆振管内・厚真町 4,602 頭飼養、哺乳豚 410 頭発症(下痢・ 嘔吐) ●宮城県 合計 10(+1) 県南、飼養約 3,900 頭、発生子豚 1,320 頭(嘔吐・下痢)、死 亡なし ●愛知県 PED 疑い 合計 53(+2) 52 例目 田原市 約 2500 頭飼養、発症肥育豚約 110 頭(下 痢)、死亡なし 53 例目 西尾市 約 1600 頭飼養、発症繁殖豚 6 頭、哺乳 豚約 40 頭、死亡なし ●群馬県 PED 疑い合計 32(+4) 累計死亡頭数 8,175 頭 29 例目、中部地域、飼養頭数約 6,000 頭、発症哺乳豚 260	●中国 H7N9 鳥インフルエンザ 5 例感染者。2 名重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_05_15_h7n9/en/

	頭(嘔吐下痢)(死亡なし) 30 例目、中部地域、飼養頭数約 8,100 頭、発症肥育豚(120 日齢)約 150 頭(下痢)(死亡なし) 31 例目、東部地域、飼養頭数約 9,000 頭、発症哺乳豚約 700 頭(下痢)(死亡なし) 32 例目、東部地域、飼養頭数約 900 頭、発症哺乳豚約 80 頭(嘔吐・下痢)、繁殖豚 1 頭(下痢)(死亡なし)	
2014.5.11	●北海道 PED 疑い合計 10(+1) 胆振管内・伊達市 1,683 頭飼養、哺乳豚 120 頭発症(下痢・嘔吐) ●岩手県 合計 13(+1) 県央 12,540 頭飼養、子豚 388 頭が発症(下痢)。子豚 2 頭死亡 累計 29,081 頭発症、4,232 頭死亡	
2014.5.10	●宮崎県 合計 76(+1) 日南市 ●秋田県 合計 6(+1) 県南、発症 : 96 頭 ●静岡県 PED 疑い合計 18(+1)湖西市 4,324 頭飼養、哺乳豚 252 頭発症、死亡なし	
2014.5.9	●宮崎県 合計 75(+1) 綾町 ●鹿児島県 合計:166 農場(+1 農場) 曾於地区 ●岩手県 合計 12(+1) 県北 3592 頭飼養、繁殖母豚 70 頭、哺乳子豚 455 頭が発症。子豚 31 頭死亡 累計 29,081 頭発症、4,232 頭死亡 ●千葉県 PED 疑い合計 65(+2)C 市、K 市 ●群馬県 PED 疑い合計 28(+4) 25 例目、中部地域、飼養頭数約 1,100 頭、発症繁殖豚 11 頭(嘔吐下痢)(死亡なし) 26 例目、東部地域、飼養頭数約 2,200 頭、発症哺乳豚約 100 頭(嘔吐下痢)(死亡なし) 27 例目、中部地域、飼養頭数約 3,800 頭、発症哺乳豚約 190 頭(下痢)(死亡なし) 28 例目、西部地域、飼養頭数約 2,200 頭、発症肥育豚 10 頭(軟便)(死亡なし)	
2014.5.8	●熊本県 高病原性鳥インフルエンザに係る移動制限区域(3km 以内)の解除 ●群馬県 PED 疑い合計 24(+1)東部、飼養頭数:約 1,600 頭、哺乳豚約 60 頭の嘔吐下痢(死亡なし) ●静岡県 PED 疑い合計 17(+1)湖西市 3,930 頭飼養、繁殖豚 5 頭発症、死亡なし ●千葉県 PED 疑い合計 63(+2)C 市、A 市	
2014.5.7	●山梨県 PED 疑い合計 1(+1) 中北、552 頭飼養(繁殖豚 102 頭、子豚 150 頭、肉豚 300 頭)、発症(繁殖豚 82 頭、子豚 63 頭、肥育豚 82 頭)、死亡子豚 32 頭 ●秋田県 合計 5(+1) 県南、3,354 頭飼養(母豚 260 頭、哺乳子豚 1,500 頭、肉豚 1,494 頭) 発症 : 哺乳子豚 168 頭(下痢)、母豚 10 頭(嘔吐) ●鹿児島県 合計:165 農場(+2 農場) ●千葉県 PED 疑い合計 61(+2)K 市、A 市	●ロシア 口蹄疫(O 型) 沿海地方 養豚場、口蹄疫(O 型)が発生 ●中国 鳥インフルエンザ H5N6 四川省、死亡初発例、49 歳、男性、家きん接触歴あり。 http://www.scwst.gov.cn/index.php/2012-07-24-12-47-36/9425-1h5n6
2014.5.6	●長野県 疑い 1(+1) 安曇野市 約 660 頭発症(下痢)、約 58 頭死亡 ●広島県 疑い 1(+1) 北広島町 約 30 頭死亡 ●宮崎県 合計 74(+1) 日南市 ●宮城県 合計 9(+1) 県南、飼養約 3,300 頭、発症子豚 320 頭(嘔吐・下痢)、死亡なし	●欧州衛生当局、PED 侵入阻止のため衛生基準を強化 欧州委員会保健・消費者保護総局(DG SANCO)が設置する食品連鎖・動物衛生常設委員会(SCoFCAH) 北米とアジアで感染が拡大する豚流行性下痢

(PED)に対応するため、豚および豚由来製品の輸入規制について検討し、一部の製品の輸入に際し、衛生条件を強化することが決定。

現在、世界にまん延している PED は、国際獣疫事務局 (OIE) のリストに掲載されていないことから、国際的な防疫基準が制定されていない。このウイルスは、かねてから EU 域内に存在しているものの、輸入を含めて EU 域内でのまん延を制御するための具体的かつ一貫的な対策を備えていなかった。

新たに出現したデルタコロナウイルス、ヨーロッパにおいてこのウイルスがどのように発生したのか有用な情報が得られない。

こうした状況を受け、EU 各加盟国は、農家レベルにおけるバイオセキュリティレベル強化の必要性を強く主張している。今回の常設委員会では、生体豚、豚血液を原料とする製品および豚の精液の EU 域内への輸入基準を議論し、一部の衛生条件が強化された。

1. 生体豚

米国およびカナダから輸入される生体豚は、既に現在の衛生基準と検疫が厳格に運用されている。2013 年の両国からの輸入実績は約 250 頭であり、近年は輸入生体豚の半数程度を占めている。両国の主務官庁から寄せられた現段階の状況によると、現在、EU に輸送中の生体豚はいない。なお、米国では、輸出前に 40 日間の拘留、30 日間の検疫が義務付けられているが、いずれも生体豚はいないと報告されている。このため、現行の輸入条件により、PED 発生国からの生体豚輸入は制限され、喫緊の課題では無いと判断できることから、現行条件の見直しについては、6 月に開催される次回の常設委員会で諮ることとなった。また、この問題については、5 月末に開催される OIE 総会においても議論される予定である。

2. 豚血液を原料とする製品

EU では、豚の血液を利用した製品は、主に子豚の飼料に使用されており、認可を受けた多くの EU 域外の国から輸入されている。不適切な加熱処理と、加熱処理後の汚染(コンタミネーション)が生じた場合、ウイルスのまん延が引き起こされる。このため、常設委員会は、次の処理を行った製品のみ、輸入を許可する暫定措置を承認した。

(1) コロナウイルスを不活化するため、80 度以上の加熱処理を行う。

(2) 加熱処理後、製品に混入した他のウイルスを不活化するため、室温で 6 週間保管する。

3. 豚の精液

豚の精液を介したコロナウイルスの伝播は、無視できる程度の要因であるとされた。また、輸入精液については、検疫措置と採取元の種雄豚に対する臨床的兆候の非存在性確認などの措置が既に実施されている。こうした措置により、侵入は防止できていることから、現行の輸入基準を継続することが合意された。なお、フランス農業大臣は、今回の委員会開催に先立ち 4 月

		30 日に、生体豚、豚の血液を原料とした製品および精液について、米国、カナダ、メキシコ、日本の 4 カ国からフランスへの輸入を停止する措置を講じていた。しかし、今回の常設委員会では、フランスの主張に沿った合意とはならなかった。 ●中国(低病原性 H7N9) 生鳥マーケットサーベイランス報告。4 月 22 日～4 月 25 日、4 か所で 5 例確認
2014.5.5	●農水省 BSE 検査 2015 年度から死亡牛 48 ヶ月齢以上に BSE 対策として「24 ヶ月齢以上」を対象に行っている死亡牛検査について、2015 年度から検査対象を「48 ヶ月齢以上」に引き上げる方針。今夏をめどに食料・農業・農村政策審議会への諮問。パブリックコメントで国民の意見を聞いた上で 2015 年 4 月に関係省令などの改正を行う。厚労省管轄のと畜牛検査は 2013 年 7 月、対象を「30 ヶ月齢以上」から「48 ヶ月齢以上」に引き上げたが、農水省の死亡牛検査は対象を「24 ヶ月齢以上」に据え置いていた。世界でも BSE 発生件数は 2013 年が 7 件と減少している。EU は検査を順次縮小し、死亡牛検査については 2009 年に対象を「24 ヶ月齢超」から「48 ヶ月齢超」に引き上げている。 ●群馬県 PED 疑い合計 23(+1) ●千葉県 PED 疑い合計 59(+4)C 市、A 市	
2014.5.4	●千葉県 PED 疑い合計 55(4/28 から 県内 9 箇所 消毒ポイント設置)	
2014.5.3	●千葉県 PED:累計5万1069頭がPEDを発症し、うち9773頭が死亡 ●長野県 合計 1(+1)1 例目 安曇野市、子豚 160 頭発症、1 頭死亡 ●新潟県 合計 25(+1) 25 例目 下越地域約 940 頭飼養、肥育豚 200 頭発症(下痢) ●宮城県 合計 8(+1) 県北、飼養約 800 頭、発症子豚 64 頭(下痢)、10 頭死亡 ●青森県 PED 疑い合計 16(+1) 16 例目 横浜町 一貫経営(53,630 頭飼養)、症状:180 頭(下痢)、死亡なし ●北海道 PED 疑い合計 8(+2) 7 例目 渡島管内・森町 13,821 頭飼養、哺乳豚 550 頭発症(下痢・嘔吐)、死亡なし 8 例目 上川管内・上川町 2,525 頭飼養、哺乳豚 110 頭発症(下痢・嘔吐)	
2014.5.2	宮崎県 飼養衛生管理基準、高い順守率 豚流行性下痢(PED)の侵入防止を図るため全504養豚場を対象に実施した「自己チェックシート」の結果を発表 ●フランス 日本産豚輸入禁止決定 豚流行性下痢(PED)対策として日本、米国、カナダ、メキシコからの生きた豚など輸入禁止 ●新潟県 合計 24(+1)24 例目 下越地域約 640 頭飼養、繁殖豚 4 頭発症(下痢、食欲不振) ●岩手県 合計 11(+2) 10 例目 県南 892 頭飼養、繁殖母豚 95 頭(嘔吐)、哺乳豚 120 頭発症(下痢)、20 頭死亡 11 例目 沿岸 18,625 頭飼養、繁殖母豚 20 頭、哺乳豚 200 頭発症(下痢)、死亡なし ●宮崎県 合計 73(+1 日南市) ※平成 26 年 5 月 2 日現在での死亡頭数は 22,952 頭(全て子豚)。また、沈静化(聞き取りにより発症・死亡が確認されなくなった状態)が確認された農場は、46 農場(串間市 2、都	

	城市 33、えびの市 1、宮崎市 4、川南町 4、日南市 1、小林市 1)。 ●北海道 合計 6(+1) 空知管内・栗山町、6,888 頭飼養、発症:哺乳豚 150 頭・育成豚 15 頭(下痢) ●長崎県 合計 15(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 8 例目 4 月 25 日 島原市 1,175 頭 9 頭 9 例目 4 月 26 日 島原市 1,227 頭 なし 10 例目 4 月 26 日 雲仙市 1,400 頭 なし 11 例目 4 月 26 日 島原市 2,565 頭 414 頭 12 例目 4 月 28 日 島原市 3,338 頭 128 頭 13 例目 4 月 28 日 島原市 8,227 頭 128 頭 14 例目 4 月 28 日 島原市 3,321 頭 74 頭 15 例目 4 月 29 日 雲仙市 2,594 頭 7 頭	
2014.5.1	宮崎県 飼養衛生管理基準、高い順守率 豚流行性下痢(PED)の侵入防止を図るため全504養豚場を対象に実施した「自己チェックシート」の結果を発表 ●フランス 日本産豚輸入禁止決定 豚流行性下痢(PED)対策として日本、米国、カナダ、メキシコからの生きた豚など輸入禁止 ●新潟県 合計 24(+1)24 例目 下越地域約 640 頭飼養、繁殖豚 4 頭発症(下痢、食欲不振) ●岩手県 合計 11(+2) 10 例目 県南 892 頭飼養、繁殖母豚 95 頭(嘔吐)、哺乳豚 120 頭発症(下痢)、20 頭死亡 11 例目 沿岸 18,625 頭飼養、繁殖母豚 20 頭、哺乳豚 200 頭発症(下痢)、死亡なし ●宮崎県 合計 73(+1 日南市) ※平成 26 年 5 月 2 日現在での死亡頭数は 22,952 頭(全て子豚)。また、沈静化(聞き取りにより発症・死亡が確認されなくなった状態)が確認された農場は、46 農場(串間市 2、都城市 33、えびの市 1、宮崎市 4、川南町 4、日南市 1、小林市 1)。 ●北海道 合計 6(+1) 空知管内・栗山町、6,888 頭飼養、発症:哺乳豚 150 頭・育成豚 15 頭(下痢) ●長崎県 合計 15(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 8 例目 4 月 25 日 島原市 1,175 頭 9 頭 9 例目 4 月 26 日 島原市 1,227 頭 なし 10 例目 4 月 26 日 雲仙市 1,400 頭 なし 11 例目 4 月 26 日 島原市 2,565 頭 414 頭 12 例目 4 月 28 日 島原市 3,338 頭 128 頭 13 例目 4 月 28 日 島原市 8,227 頭 128 頭 14 例目 4 月 28 日 島原市 3,321 頭 74 頭 15 例目 4 月 29 日 雲仙市 2,594 頭 7 頭	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 3 例確認 2 名重篤 http://www.who.int/csr/don/2014_05_01_h7n9/en/
2014.4.30	群馬県 PED 疑い合計 15(+3) ●静岡県 PED 疑い合計 16(+2) 15 例目 富士宮市 253 頭飼養、母豚 2 頭発症、哺乳豚 6 頭発症、死亡なし 16 例目 湖西市 1233 頭飼養、哺乳豚 11 頭発症、死亡なし ●鹿児島県 合計:162 農場(+2 農場) 発生農場のうち、104 農場で沈静化を確認(南薩 13, 北薩 1, 始良 1, 曾於 12, 肝属 76, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない)	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 2014 年 3 月 06 日～4 月 21 日の期間、3 件のアウトブレイク確認。770 羽死亡、99,930 羽殺処理

	◇発症頭数:205,325 頭(繁殖:18,935, 肥育:109,631, 子豚:76,759) ◇死亡頭数:36,333 頭(ほぼ全て子豚) 発生地域 一貫 繁殖 肥育 合計 南薩地域 7 2 5 14 北薩地域 2 0 2 4 始良地域 3 0 0 3 曾於地域 16 13 5 34 肝属地域 53 20 33 106 徳之島地域 1 0 0 1 合計 82 35 45 162 ●農水省「PED ワクチン」効果確認 PED のワクチンについて、国内で現在流行しているウイルス株への有効性をあらためて確認。PED の感染拡大が止まらない中、ワクチンの効果に疑問を挟む声が寄せられていることに応えた。有効性はワクチンメーカーの試験で確認した。接種した豚が体内で作った抗体と、国内で流行しているウイルスを反応させたところ、ウイルスの増殖を十分に抑えた。豚への感染試験では、接種しない場合の子豚の死亡率が 8 割だったのに対して、接種した母豚から生まれて、その乳汁を飲んだ子豚の死亡率は 3 割以下に抑えられた。	
2014.4.29	●新潟県 合計 22(+1) 22 例目 下越地域約 1300 頭飼養、哺乳豚 23 頭発症(下痢、嘔吐) ●静岡県 PED 疑い合計 14(+1) 14 例目 湖西市 3473 頭飼養、母豚 2 頭発症、哺乳豚 467 頭発症、死亡なし	
2014.4.28	●茨城県 PED まん延防止緊急対策で県内の全養豚場 541 カ所、食肉処理場 8 カ所、家畜市場 1 カ所に消毒用消石灰の配布。 ●愛知県 PED 疑い 合計 49(+4) 46 例目 田原市 約 1000 頭飼養、発症肥育豚約 70 頭(下痢)死亡なし 47 例目 田原市 約 800 頭飼養、発症肥育豚約 5 頭(下痢)、死亡なし 48 例目 田原市 約 1400 頭飼養、発症繁殖母豚 2 頭(下痢)、哺乳豚約 200 頭(下痢) 49 例目 西尾市 約 2300 頭飼養、発症哺乳豚約 50 頭(下痢) ●北海道県 PED 疑い合計 5(+1) 赤井村、13,634 頭飼養、発症:哺乳豚 1,330 頭(嘔吐・下痢) ●秋田県 合計 4(+1) 2 例目農場から 500m 2,683 頭飼養、子豚 110 頭発症 ●宮城県 合計 7(+1) 県北、飼養約 700 頭、発症子豚 6 頭(下痢)、死亡なし ●鹿児島県 合計:160 農場(+2 農場) 発生農場のうち、95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4 月 22 日集計時点)発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚)	
2014.4.27	●熊本県 鳥インフル(H5N8) 多良木町の養鶏場と、経営者が同じ同県相良村の養鶏場からそれぞれ半径 3 キロ圏にある養鶏場 2 カ所で、鶏が感染していないか確認する検査を始めた。結果は早ければ 5 月 1	

	日に判明する。感染拡大がなければ、半径 3～10 キロ圏に設定した鶏や卵の搬出制限を解除する。解除後も新たな発生がなければ、3 キロ圏内の移動制限を 5 月 8 日にも解除し、終息に向かう。 ●山形県 PED 合計 3(+1) 3 例目 置賜:発症子豚 110 頭 ●宮崎県 PED 合計 71(+1 日南市) ●秋田県 PED 合計 3(+1) 1 発生例(3 例目)の概要 (1)飼養農場 :養豚場1戸(18,7870 頭飼養) (2)症 状 :母豚 5 頭(下痢)、哺乳子豚 1,500 頭(下痢)、うち子豚死亡 76 頭	
2014.4.26	●静岡県 PED 疑い合計 13(+1) 13 例目 中遠地区北部 3010 頭飼養、母豚 5 頭発症、死亡なし ●秋田県 PED 疑い合計 2(+1) 1 発生例(2 例目)の概要 (1)飼養農場 :3,700 頭飼養 (2)症 状 :母豚 2 頭(嘔吐)、子豚 210 頭(下痢)、子豚死亡 10 頭 ●宮城県 合計 5(+1) 県北、飼養約 2,300 頭、発症母豚 1 頭、哺乳子豚 70 頭(下痢・嘔吐)、死亡なし	
2014.4.25	●千葉県 PED 疑い合計 37(+5)(4/28 から 県内 9 箇所消毒ポイント設置) ●新潟県 疑い合計 21(+2) 20 例目 中越地域約 3200 頭飼養、繁殖豚 1 頭発症(下痢、嘔吐) 21 例目 下越地域約 1600 頭飼養、110 頭発症(繁殖豚(嘔吐)、哺乳豚下痢、嘔吐)うち 1 頭死亡 ●宮崎県 合計 70(+1 小林町) ●鹿児島県 合計:158 農場(+1 農場) 発生農場のうち、95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月 22 日集計時点)発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚) ●長崎県 合計 7(+1) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 7 例目 4 月 20 日 島原市 5180 頭 418 頭	●台湾 鳥インフルエンザ H7N9 台北 2 例感染者、累計 4 例。http://www.who.int/csr/don/2014_06_27_avian_influenza/en/
2014.4.24	●静岡県 PED 疑い合計 12(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 発症頭数 死亡頭数 5 例目 4 月 10 日 浜松市 1,700 頭 育成豚 3 頭,肥育豚 2 頭 なし 6 例目 4 月 11 日 浜松市 1,336 頭 繁殖豚 4 頭,哺乳豚 120 頭 なし 7 例目 4 月 11 日 浜松市 998 頭 繁殖豚 4 頭,子豚・哺乳豚 150 頭 哺乳豚 10 頭 8 例目 4 月 11 日 牧之原市 1,300 頭 繁殖豚 1 頭,子豚・哺乳豚 108 頭 なし 9 例目 4 月 15 日 浜松市 483 頭 繁殖豚 3 頭 なし 10 例目 4 月 17 日 富士宮市 39 頭 肥育豚 3 頭 なし 11 例目 4 月 21 日 三島市 2,751 頭 哺乳豚 180 頭,繁殖豚 1 頭 なし 12 例目 4 月 23 日 湖西市 2,400 頭 子豚 5 頭 なし	●中国 鳥インフルエンザ H7N96 例確認。1 名死亡、4 名重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_24_h7n9/en/

	●宮崎県 合計 69(+1 川南町) ●鹿児島県 合計:157 農場(+3 農場) 発生農場のうち, 95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月 22 日集計時点) 発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚)	
2014.4.23	● 静岡県 PED 疑い合計 12(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 発症頭数 死亡頭数 5 例目 4 月 10 日 浜松市 1,700 頭 育成豚 3 頭,肥育豚 2 頭 なし 6 例目 4 月 11 日 浜松市 1,336 頭 繁殖豚 4 頭,哺乳豚 120 頭 なし 7 例目 4 月 11 日 浜松市 998 頭 繁殖豚 4 頭,子豚・哺乳豚 150 頭 哺乳豚 10 頭 8 例目 4 月 11 日 牧之原市 1,300 頭 繁殖豚 1 頭,子豚・哺乳豚 108 頭 なし 9 例目 4 月 15 日 浜松市 483 頭 繁殖豚 3 頭 なし 10 例目 4 月 17 日 富士宮市 39 頭 肥育豚 3 頭 なし 11 例目 4 月 21 日 三島市 2,751 頭 哺乳豚 180 頭,繁殖豚 1 頭 なし 12 例目 4 月 23 日 湖西市 2,400 頭 子豚 5 頭 なし ●宮崎県 合計 69(+1 川南町) ●鹿児島県 合計:157 農場(+3 農場) 発生農場のうち, 95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月 22 日集計時点) 発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚)	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8) 忠清北道鎮川郡 ガチョウが高病原性鳥インフルエンザ(H5N8)に感染。ガチョウ約700羽を殺処分。中心半径3キロ以内移動制限
2014.4.22	● 静岡県 PED 疑い合計 12(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 発症頭数 死亡頭数 5 例目 4 月 10 日 浜松市 1,700 頭 育成豚 3 頭,肥育豚 2 頭 なし 6 例目 4 月 11 日 浜松市 1,336 頭 繁殖豚 4 頭,哺乳豚 120 頭 なし 7 例目 4 月 11 日 浜松市 998 頭 繁殖豚 4 頭,子豚・哺乳豚 150 頭 哺乳豚 10 頭 8 例目 4 月 11 日 牧之原市 1,300 頭 繁殖豚 1 頭,子豚・哺乳豚 108 頭 なし 9 例目 4 月 15 日 浜松市 483 頭 繁殖豚 3 頭 なし 10 例目 4 月 17 日 富士宮市 39 頭 肥育豚 3 頭 なし 11 例目 4 月 21 日 三島市 2,751 頭 哺乳豚 180 頭,繁殖豚 1 頭 なし 12 例目 4 月 23 日 湖西市 2,400 頭 子豚 5 頭 なし ●宮崎県 合計 69(+1 川南町) ●鹿児島県 合計:157 農場(+3 農場) 発生農場のうち, 95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月 22 日集計時点) 発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚)	●米国 低病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)発生 カリフォルニア州 低病原性鳥インフルエンザの発生確認。ウズラと北京ダックの商業飼育施設。

2014.4.21	●静岡県 PED 疑い合計 12(+8) 疑月日 場所 飼養頭数 発症頭数 死亡頭数 5 例目 4 月 10 日 浜松市 1,700 頭 育成豚 3 頭,肥育豚 2 頭 なし 6 例目 4 月 11 日 浜松市 1,336 頭 繁殖豚 4 頭,哺乳豚 120 頭 なし 7 例目 4 月 11 日 浜松市 998 頭 繁殖豚 4 頭,子豚・哺乳豚 150 頭 哺乳豚 10 頭 8 例目 4 月 11 日 牧之原市 1,300 頭 繁殖豚 1 頭,子豚・哺乳豚 108 頭 なし 9 例目 4 月 15 日 浜松市 483 頭 繁殖豚 3 頭 なし 10 例目 4 月 17 日 富士宮市 39 頭 肥育豚 3 頭 なし 11 例目 4 月 21 日 三島市 2,751 頭 哺乳豚 180 頭,繁殖豚 1 頭 なし 12 例目 4 月 23 日 湖西市 2,400 頭 子豚 5 頭 なし ●宮崎県 合計 69(+1 川南町) ●鹿児島県 合計:157 農場(+3 農場) 発生農場のうち, 95 農場で沈静化を確認(南薩 12, 北薩 1, 始良 1, 曾於 6, 肝属 74, 徳之島 1)※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月 22 日集計時点) 発症:約 186,887 頭(繁殖:約 16,338, 肥育:約 104,446, 子豚:約 66,053),死亡:約 29,992 頭(ほぼ全て子豚)	●台湾 LPAI(H5N2 型)発生 雲林県、養鶏場、低病原性鳥インフルエンザ(H5N2 型)発生 http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Dis easeinformation/WI
2014.4.20	●千葉県 PED 疑い合計 25(+1) 飼養 633 頭、発症哺乳豚および離乳豚 209 頭(灰色～黄色水様性下痢、嘔吐)、死亡なし、母豚異常なし	
2014.4.19	●秋田県 PED 疑い合計 1(+1) ●青森県 PED 疑い合計 6(+2) 5 例目 (1) 県南地域の養豚場(3,130 頭飼養) (2) 症状 :哺乳子豚 150 頭(下痢、嘔吐) 6 例目 (1) 沿岸地域の養豚場(459 頭飼養) (2) 症状 :繁殖母豚 9 頭、哺乳子豚 11 頭、肥育豚 2 頭に下痢(うち哺乳子豚 6 頭死亡) ●新潟県 合計 13(+3) 11 例目 下越地域約 7800 頭飼養、哺乳豚 408 頭発症(下痢、嘔吐) 12 例目 下越地域約 750 頭飼養、哺乳豚 56 頭発症(下痢、嘔吐)うち 1 頭死亡 13 例目 中越地域約 840 頭飼養、哺乳豚 51 頭発症(下痢、嘔吐)	
2014.4.18	●北海道県 PED 疑い合計 3(+1) 上川、3,398 頭飼養、発症:哺乳豚 70 頭(下痢、嘔吐) ●青森県 PED 疑い合計 4(+1) 横浜町 3,112 頭飼養、発症肥育豚 45 頭(軟便、下痢) ●宮崎県 合計 67(+1 都城市、+1 小林市) ●愛知県 PED 疑い 合計 35(+5)死亡なし ●岩手県 PED 疑い合計 4(+1) 飼養 3,112 頭、発症肥育豚 45 頭(軟便、下痢) ●宮城県 合計 1(+1) 県北、飼養約 10,500 頭、発症繁殖母豚 3 頭、肥育豚 415 頭(下痢) ●新潟県 合計 10(+1) 上越地域約 950 頭飼養、哺乳豚 47 頭発症(水様性下痢、嘔吐) ●鹿児島県 合計:150 農場(+1 農場) 発生農場のうち, 90 農場で沈静化を確認(南薩 12, 曾於 5,	

	肝属 72, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月15日集計時点) 発症:約 167,000 頭(繁殖:約 13,000, 肥育:約 100,000, 子豚:約 54,000),死亡:約 27,000 頭(ほぼ全て子豚) ●宮崎県 TGE 合計 4(内訳:川南町 2、西都市 2)	
2014.4.17	●北海道県 PED 疑い合計 3(+1) 上川、3,398 頭飼養、発症:哺乳豚 70 頭(下痢、嘔吐) ●青森県 PED 疑い合計 4(+1) 横浜町 3,112 頭飼養、発症肥育豚 45 頭(軟便、下痢) ●宮崎県 合計 67(+1 都城市、+1 小林市) ●愛知県 PED 疑い 合計 35(+5)死亡なし ●岩手県 PED 疑い合計 4(+1) 飼養 3,112 頭、発症肥育豚 45 頭(軟便、下痢) ●宮城県 合計 1(+1) 県北、飼養約 10,500 頭、発症繁殖母豚 3 頭、肥育豚 415 頭(下痢) ●新潟県 合計 10(+1) 上越地域約 950 頭飼養、哺乳豚 47 頭発症(水様性下痢、嘔吐) ●鹿児島県 合計:150 農場(+1 農場) 発生農場のうち、90 農場で沈静化を確認(南薩 12, 曾於 5, 肝属 72, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルス清浄化を示すものではない) ◇発症頭数・死亡頭数(4月15日集計時点) 発症:約 167,000 頭(繁殖:約 13,000, 肥育:約 100,000, 子豚:約 54,000),死亡:約 27,000 頭(ほぼ全て子豚) ●宮崎県 TGE 合計 4(内訳:川南町 2、西都市 2)	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 型) あひる, 鶏 427 農場周囲 143 農場, 約 1,180 万羽殺処分。
2014.4.16	●千葉県 PED 疑い合計 11(+6) ●秋田県 PED 疑い合計 1(+1) 県南、飼養 3107 頭(母豚 275 頭、哺乳豚 469 頭、肉豚等 2363 頭)、発症哺乳豚 208 頭(下痢) ●栃木県 PED 疑い合計 10(+2) ●群馬県 PED 合計 6(+2)	●台湾(高病原性 H5N2)アウトブレイク確認。2 羽死亡
2014.4.15	●熊本県 鳥インフル(H5) 多良木町と相良村 2 農場 11 万 2000 羽殺処分終了。埋却と消毒作業を 16 日午前中の終了を目標に進め、最短で 5 月 8 日移動制限の解除を目指す。 ●環境省 鳥インフル(H5) 熊本県に専門チームを派遣し、野鳥調査開始。同県多良木町の養鶏場から半径 10 キロ以内の田畑や球磨川流域で渡り鳥 6 種を確認した。いずれも鳥インフルエンザに感染しやすい「リスク種」ではなかった。17 日まで調査を続ける。 ●岩手県 PED 疑い合計 2(+1) 県南、飼養 4,452 頭、発症哺乳豚 598 頭(下痢、嘔吐)、うち哺乳豚 170 頭死亡 ●鹿児島県 PED 合計:148 農場(+7 農場) 発生農場のうち、(3/27)89 農場で沈静化、(4/9)(発症:約 167,000 頭(繁殖:約 13,000, 肥育:約 100,000, 子豚:約 54,000), 死亡:約 27,000 頭(ほぼ全て子豚)) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) ●愛知県 PED 疑い 合計 24(+10) ●栃木県 PED 疑い合計 8(+2) ●宮崎県 PED 合計 65(+1)	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 中国と香港 各 1 名の感染者報告。香港の 1 名は重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_15_h7n9/en/

	●新潟県 PED 合計 7(+1) 下越地域約 2200 頭飼養、哺乳豚 10 頭発症(嘔吐)	
2014.4.14	●岩手県 PED 疑い合計 1(+1) 県南、飼養 17,110 頭、発症母豚 10 頭(下痢)、哺乳豚 1,080 頭(下痢、嘔吐)、うち哺乳豚 20 頭死亡 ●北海道 PED 疑い合計 2(+1) 森町、12,013 頭飼養、発症:哺乳豚50頭(下痢) ●群馬県 PED 合計 4(+1) 県中部約 2000 頭飼養、繁殖母豚 5 頭(嘔吐)、1 頭(食欲不振)、死亡なし ●栃木県 PED 疑い合計 6(+2) ●岐阜県 PED 疑い合計 1(+1)、6000 頭飼養、998 頭発症、145 頭死亡。 ●新潟県 合計 6(+1) 下越地域約 4,000 頭飼養、哺乳豚 84 頭発症(水様性下痢、嘔吐)	●中国 鳥インフルエンザ H7N94 例確認。全員重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_14_h7n9/en/
2014.4.13	●千葉県 PED 疑い合計 5(+1) 飼養約1300頭、発症:哺乳豚350頭/440頭(黄色水様性下痢)、死亡なし ●愛知県 PED 疑い 合計 16(+2) 15 例目 田原市 飼養約 2200 頭、発症哺乳豚約 290 頭(下痢)、哺乳豚約 20 頭死亡 16 例目 田原市 飼養約 2800 頭、発症哺乳豚約 170 頭(下痢)、哺乳豚約 30 頭死亡 ●福井県 PED 疑い 合計 1(+1) 1 例目 飼養約 600 頭、発症哺乳豚約 120 頭(下痢・嘔吐)、哺乳豚 2 頭死亡 ●新潟県 合計 5(+1) 下越地域約 550 頭飼養、哺乳豚 8 頭発症(水様性下痢、嘔吐)(うち 1 頭死亡) ●熊本県 球磨郡多良木町などで鳥インフルエンザの疑似患畜が確認 ○発生農場 ・熊本県球磨郡多良木町 ・肉用鶏、約 56,000 羽飼養 ・4 月 12 日に 200 羽死亡し、簡易検査で陽性。4 月 13 日に PCR 検査で陽性(H5 型)。 ○疫学関連農場 ・熊本県球磨郡相良村 ・肉用鶏、約 56,000 羽飼養 ・発生農場と同一管理者の農場であるが、異状は認められていない。	
2014.4.12	●山形県 合計 2(+2) 1 例目 置賜:発症繁殖 42 頭、子豚 740 頭、うち子豚 164 頭死亡。 2 例目 庄内:発症繁殖 7 頭、子豚 160 頭、48 頭死亡。 ●千葉県 PED 疑い合計 4(+2) 飼養約8400頭、発症:哺乳豚 56 頭(黄色水様性下痢、6 頭嘔吐)、母豚1頭(嘔吐)、死亡なし ●青森県 PED 疑い合計 2(+1) 県南 一貫経営 10,843 頭飼養、発症子豚 497 頭(嘔吐・下痢)、死亡なし ●愛知県 PED 疑い 合計 14(+1) 田原市	
2014.4.11	●北海道 PED 疑い合計 1(+1) 森町、8014頭飼養、発症:哺乳豚500頭(下痢、嘔吐)、死亡なし	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 中国と香港 各 1 名の感染者報告。香港の 1 名は重篤。

	● 栃木県 PED 疑い合計 4(+1) 那須地域約 20,000 頭飼養、発症 286 頭(哺乳豚の下痢)、死亡なし ● 新潟県 PED 合計 4(+1) 下越地域約 5,900 頭飼養、哺乳豚 45 頭発症(下痢、嘔吐)	http://www.who.int/csr/don/2014_04_11_h7n9/en/
2014.4.10	● 群馬県 PED 合計 3(+1) 県西部約 6700 頭飼養、哺乳豚約 240 頭発症(嘔吐・下痢)、10 頭死亡 ● 静岡県 PED 疑い合計 4(+1) 1 件目:富士宮市 1930 頭飼養、発症:繁殖豚20頭、子豚220頭、死亡哺乳豚130頭 2件目富士宮市 1011 頭飼養、発症繁殖豚5頭、子豚300頭、死亡なし 3件目:富士宮市 460 頭飼養、発症肥育豚1頭、子豚5頭、死亡なし 4件目(疑い)富士宮市 650 頭飼養、発症肥育豚100頭、死亡なし ● 新潟県 PED 疑い合計 3(+1) 下越地域約 900 頭飼養、哺乳豚約 40 頭発症(水様性下痢、嘔吐) ● 栃木県 PED 疑い合計 3(+1) 那須地域約 4500 頭飼養、発症 177 頭(哺乳豚の下痢、繁殖豚の嘔吐・下痢)、死亡なし ● 鹿児島県 合計:141 農場(+4 農場) 発生農場のうち、(3/27)89 農場で沈静化(発症 165,389 頭、死亡 26,527 頭) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:53 農場(+1) ・繁殖:20 農場 ・肥育:33 農場(+1) 曾於地区 ・一貫:9 農場 ・繁殖:8 農場(+1) ・肥育:2 農場 北薩地区 ・一貫:1 農場 始良地区 ・一貫:1 農場 南薩地区 ・一貫:7 農場(+1) ・繁殖:2 農場 ・肥育:4 農場 徳之島地区 ・一貫:1 農場 ● 長崎県 合計 3(+1) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 3 例目 4 月 6 日 五島市 3151 頭 1122 頭	● 中国 鳥インフルエンザ H7N9 追加 2 人。両者とも重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_10_h7n9/en/ ● 北朝鮮 鳥インフルエンザ H5N1 アウトブレイクが続きこれまでに数万羽の鶏が殺処理されたと、North's Korean Central News Agency (KCNA)が報告。136 羽死亡、365 羽殺処理。
2014.4.9	● 千葉県 PED 疑い合計 2(+2) 1 件目発症:哺乳豚500頭(水様性下痢、嘔吐)、死亡なし 2件目発症哺乳豚100頭(黄色水様性下痢)、死亡なし ● 福島県 PED 疑い合計 1(+1) 家畜改良センター本所約 200 頭飼養、繁殖豚 13 頭発症(下痢) ● 新潟県 PED 合計 2(+1) 中越約 2700 頭飼養、哺乳豚約 70 頭発症(水様性下痢、嘔吐)	

2014.4.8	青森県 PED 疑い合計 2(+1) 三戸町約 19,800 頭飼養、子豚 8 頭下痢・死亡 ●新潟県 PED 合計 1(+1) 中越約 2,300 頭飼養、哺乳豚約 200 頭発症(水様性下痢、嘔吐、死亡あり) ●宮崎県 合計 64(+2) 宮崎市 4 農場 串間市 2 農場 都城市 42 農場(+1) えびの市 2 農場 川南町 9 農場(+1)畜産試験場川南支場 新富町 1 農場 日南町 1 農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 都農町 1 農場 ●長崎県 合計 2(+1) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 2 例目 4 月 4 日 五島市 2240 頭 1317 頭	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 追加 1 人。発症時香港旅行中、香港で治療中、安定。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_08_HKSA_R/en/ 追加 3 人。このうち重篤 2 名。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_08/en/
2014.4.7	●茨城県 PED 合計 3(+1) 県東部約 10,000 頭飼養、哺乳豚約 900 頭発症(下痢)、死亡なし(ワクチン接種農場) ●栃木県 PED 合計 1(+1) 県北部約 17,000 頭飼養、哺乳豚発症(水様性下痢) ●群馬県 PED 合計 2(+2) 県西部約 2000 頭飼養、哺乳豚約 360 頭発症(下痢)、9 頭死亡 県中部約 8000 頭飼養、繁殖豚 2 頭と哺乳豚約 1000 頭発症(嘔吐・下痢) ●米国デラウェア州 家きん輸入停止 デラウェア州で低病原性鳥インフルエンザ(H7 亜型)の発生が確認されたとして、同州からの生きた家きん肉などの輸入を同日付で停止。	●米国 デラウェア州 低病原性鳥インフルエンザ(H7 亜型)の発生 せり市で行ったサーベイランスの結果、同病の発生が確認。
2014.4.6	●宮崎県 PED 合計 62(+1) 宮崎市 4 農場(+1) 串間市 2 農場 都城市 41 農場 えびの市 2 農場 川南町 8 農場 新富町 1 農場 日南町 1 農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 都農町 1 農場 ●茨城県 PED 疑い合計 3(+1) 東部約 10,000 頭飼養、哺乳豚約 900 頭発症(嘔吐・下痢) 死亡なし ●愛知県 PED 疑い 合計 10(+1) 瀬戸市市、約 1500 頭飼育。 発症 哺乳豚 170 頭、死亡なし。	●韓国 「ツツガムシ病」 フトゲツツガムシというダニを媒介して感染する「ツツガムシ病」の感染者が年間 1 万人を超え、死者数も年間 23 人。 ツツガムシ病の患者数は 1995 年に 275 人から 2013 年には 1 万 378 人と、18 年間で 38 倍に増え、死者数は、2010 年の 3 人から 2013 年には 23 人に急増。感染は女性農業者で多く、特に 60 歳以上の高齢者で多発。
2014.4.5	●石川県 PED 疑い合計 1(+1) 1130 頭飼養(母豚 190 頭、子豚 940 頭)、母豚 20 頭と子豚 220 頭発症(軟便・下痢)、発症子豚の 6 割死亡 ●静岡県 PED 疑い合計 1(+1) 1500 頭飼養、母豚と 1～5 日齢子豚 77 頭発症(下痢・嘔吐)、子豚 10 死亡	

2014.4.4	●長崎県 PED 疑い合計 1(+1) 2240 頭飼養、子豚 200 頭発症(下痢・嘔吐)、子豚 10 死亡 ●鹿児島県 合計:137 農場(+2 農場) 発生農場のうち、(3/27)89 農場で沈静化(発症 165,389 頭、死亡 26,527 頭) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:52 農場 ・繁殖:20 農場(+1) ・肥育:32 農場 曾於地区 ・一貫:9 農場 ・繁殖:7 農場 ・肥育:2 農場(+1) 北薩地区 ・一貫:1 農場 始良地区 ・一貫:1 農場(+1) 南薩地区 ・一貫:6 農場 ・繁殖:2 農場 ・肥育:4 農場 徳之島地区 ・一貫:1 農場	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 中国追加 2 人。 このうち重篤 1 名。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_04/en/
2014.4.3		●中国 口蹄疫 O 型・発生場所:江西省の牛飼養農場 口蹄疫(O 型)の発生 ●マリ エボラ出血熱、3 人感染疑い。致死率の高い伝染病エボラ出血熱は西アフリカで拡大。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 3 例確認。このうち重篤 1 名。 http://www.who.int/csr/don/2014_04_03/en/
2014.4.2	●農林水産省 豚流行性下痢(PED)防疫担当者全国会議開催 ●愛知県 PED 疑い 合計 9(+1) 瀬戸市市、約 2500 頭飼育。 発症 母豚 10 頭(下痢・嘔吐)、死亡なし。 ●宮崎県 合計 61(+1) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 41 農場 えびの市 2 農場 川南町 8 農場(+1) 新富町 1 農場 日南町 1 農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 都農町 1 農場	
2014.4.1	- 愛媛県 PED 疑い合計 1(+1) 700 頭発症、13 頭死亡 ●大分県 疑い合計 4 件(+1) 130 頭発症	
2014.3.31	●香川県 PED 疑い合計 1(+1) 子豚 280 頭発症 ●鹿児島県 合計:135 農場(+11 農場) 発生農場のうち、(3/25)79 農場で沈静化(南薩 8, 曾於 5, 肝	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 型) 約 1,186 万羽殺処分(472 戸)(2014.3.31) ・あひる、鶏・発生農場 28 農場・発生農場周囲 149 農場・疫学関連 15 農場

	属 65, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:52 農場 ・繁殖:19 農場 ・肥育:32 農場 曾於地区 ・一貫:9 農場(+1) ・繁殖:7 農場 ・肥育:2 農場(+2) 北薩地区 ・一貫:1 農場 南薩地区 ・一貫:6農場 ・繁殖:2 農場(+1) ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	[野鳥](2014.3.31)・陽性 16 地域、36 件(トモエガモ 10 件ほか) ●ラオス 鳥インフルエンザ H5N1 2014 年 3 月 13 日アウトブレイク確認。457 羽死亡、543 羽殺処理。
2014.3.30	●宮崎県 PED 合計 60(+1) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 41 農場(+1) えびの市 2 農場 川南町 7 農場(+1) 新富町 1 農場 日南町 1農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 都農町 1 農場	
2014.3.28	●宮崎県 PED 合計 59(+2) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 41 農場(+1) えびの市 2 農場 川南町 6 農場 新富町 1 農場 日南町 1農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 都農町 1 農場(+1) ●佐賀県 合計 6(+2) 佐賀市 親豚 17 頭、死亡なし 唐津市 子豚 100 頭発症、死亡なし ●長崎県 合計 1(+1) 疑月日 場所 飼養頭数 死亡頭数 1 例目 3 月 25 日 雲仙市 2690 頭 161 頭	
2014.3.27	●鹿児島県 合計:131 農場(+11 農場) 発生農場のうち、(3/25)79 農場で沈静化(南薩 8, 曾於 5, 肝属 65, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:52 農場(+2) ・繁殖:19 農場(+1) ・肥育:32 農場) 曾於地区	●北朝鮮(高病原性 H5N1)ピョンヤンでアウトブレイク確認。9,174 羽死亡、39,647 羽殺処理。

	・一貫:8 農場(+3) ・繁殖:7 農場(+4) 北薩地区 ・一貫:1 農場 南薩地区 ・一貫:6農場 ・繁殖:2 農場(+1) ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 ●宮崎県 合計 57(+2) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 40 農場(+1) えびの市 2 農場 川南町 6 農場 新富町 1 農場(+1) 日南町 1農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場 ●三重県 合計 3(+1) 発症頭数等:子豚220頭(内20頭死亡)、繁殖豚21頭 症 状 等:子豚(哺乳豚)の下痢・嘔吐、繁殖豚の食欲低下 ●千葉県 合計 1(+1) 1 農場(7450 頭飼養) 繁殖母豚 6 頭の下痢、哺乳豚 60 頭の黄色水様性下痢・おう吐 死亡なし。	
2014.3.26	●宮崎県 PED 合計 55(+2) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場 えびの市 2 農場 川南町 6 農場(+1) 日南町 1農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場(+1) ●愛知県 PED 疑い 合計 8(+1) 瀬戸市市、約 4500 頭飼育。 発症 母豚 2 頭(下痢)、哺乳豚約 350 頭(嘔吐・下痢)、死亡なし。 ●埼玉県 PED 疑い 合計 1(+1) 秩父、約 800 頭飼育。 発症 母豚の食欲不振、下痢、哺乳豚(死亡) ●千葉県 PED 疑い 合計 1(+1) 秩父、約 800 頭飼育。 発症 母豚 6 頭(下痢)、哺乳豚 1000 頭(黄色水様性下痢・嘔吐)、死亡なし ●三重県 PED 疑い 合計 2(+2) 北勢、 発症頭数等:1例目農場 子豚141頭、 2例目農場 子豚250頭、繁殖豚2頭 症状等:子豚(哺乳豚)の下痢・嘔吐、繁殖豚の下痢、死亡豚なし ●農水省 シンガポール向け 牛肉輸出 月齢制限撤廃 シンガポールへの国産牛肉の輸出制限から月齢制限が撤廃された。日本が BSE の発生リスクが最も低い清浄国に認定さ	

	れたため。月齢制限がなくなり、肥育期間が長くさしの入った高級牛肉の輸出が可能。同国への輸出実績は 2013 年に過去最高の 86 トン。	
2014.3.25	●農相 豚が死亡し、減収を強いられた農家への救済策として、日本政策金融公庫の農林漁業セーフティネット資金の活用など呼びかけ。 PED は現在、青森から沖縄まで 13 県で発生。昨年末の時点では 4 県だったが、1 月末から増え始め、3 月だけで新たに 6 県で発生を確認した。発生頭数は 17 万頭に上り、3 万 8000 頭超が死亡した。長崎県でも発生が疑われている。 農家への救済策として、農相は「農林漁業セーフティネット資金が活用できる」。同資金は返済期間が 10 年以内の長期資金。基本的な借り入れ限度額は 600 万円で、簿記帳簿をしている場合は 600 万円以上になる場合もある。既存の対策を活用し、つなぎの資金の確保を促す。 ●長崎県 PED 疑い 合計 1(+1) 雲仙市、約 2700 頭飼育。 発症 生後 30 日子豚(約 220 頭が嘔吐・下痢)、死亡なし。	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1)広東省深圳市 49 歳男性。3/15 発症、3/23 入院。現在容態重篤。家さん接触歴あり。 (2)広東省広州市 58 歳男性。3/12 発症、3/19 入院。現在容態重篤。家さん接触歴あり。
2014.3.24	●愛知県 PED 合計 7(+1 農場) 一貫 飼養頭数約 80 頭 症状 哺乳豚 40 頭下痢 ●佐賀県 PED 合計 4(+1) 唐津市、約 640 頭飼育。 発症 母豚 7 頭(下痢・嘔吐)、哺乳豚約 140 頭(下痢)、死亡 12 頭。 ●カナダ産牛肉 月齢超が混載 出荷業者からの輸入停止 厚生労働省、輸入月齢制限の 30 ヶ月齢を越える牛と疑われるカナダ産の牛肉が混載されていたため、JBS フードカナダ社からの輸入を停止した。輸入されたカナダ産冷凍横隔膜 1494 箱を農水省動物検疫所で検査したところ、30 ヶ月齢超だと疑われるものが 1 箱(約 12 キロ)含まれていた。カナダ産牛肉での混載は初めて。牛肉の輸入月齢制限は昨年、20 ヶ月齢以下から 30 ヶ月齢以下に緩和された。	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1)安徽省滁州市 82 歳男性。3/10 発症、3/20 入院。現在容態重篤。家さん接触歴あり。 (2)広東省汕頭市 62 歳男性。3/14 発症、3/19 入院。現在容態重篤。
2014.3.23	●宮崎県 PED 合計 55(+2) 宮崎市 3 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場 えびの市 2 農場 川南町 6 農場(+1) 日南町 1 農場 小林市 1 農場 延岡市 1 農場(+1)	
2014.3.22	●宮崎県 PED 合計 53(+1) 宮崎市 3 農場(+1) 串間市 2 農場 都城市 39 農場 えびの市 2 農場 川南町 5 農場 日南町 1 農場 小林市 1 農場	
2014.3.21	●高知県 PED 合計 3(+1) 飼養頭数 約 60 頭、発症 繁殖豚 6 頭(下痢、嘔吐)、死亡 0	●ラオス 鳥インフルエンザ H5N1 2014 年 3 月 13 日アウトブレイク確認。457 羽死亡、543 羽殺処理。

		●北朝鮮(高病原性 H5N1) ピョンヤンでアウトブレイク確認。 9,174 羽死亡、39,647 羽殺処理。
2014.3.20	●岐阜大に家畜保健衛生所 岐阜県と協定防疫強化へ連携 岐阜大学内に県中央家畜保健衛生所を新設。県は学官による共同研究や学生の実習の場として活用する方針で、国立大の敷地内に自治体の家畜保健衛生所を置くのは全国初。新設される県中央家畜保健衛生所は、鉄筋3階で延べ約2800m2。同大学応用生物科学部の農場の一部を県に無償貸与。2014 年度着工、総事業費、県が約 14 億円支出。高度なウイルス検査などを行う高度病性鑑定センター(岐阜市)と合わせて機能を新施設に移す。また、新施設には新たに同大学応用生物科学部共同獣医学科に設けられる「家畜衛生地域連携実習教育研究センター(仮称)」が入る。研究者2人以上を置き、大学が持つ科学的知見や分析能力を県との共同研究や実習に活用。 ●4 年ぶり輸出再開へ ベトナム向け 牛・豚肉 農水省、ベトナムに対する牛肉と豚肉、それらの内臓の輸出が認められる予定。約 4 年ぶりに輸出再開。ベトナムは食肉の消費が多い。輸出できる内臓は心臓、肝臓、腎臓。 ●愛知県 PED 合計 6(+4 農場) 6 件目 飼養頭数 約 3,600 頭 発症頭数 10 頭(雄 9 頭、雌 1 頭) 下痢、130 頭(哺乳豚、嘔吐・下痢)、死亡 0 ●鹿児島県 PED 合計:121 農場(+2 農場) 発生農場のうち、79 農場で沈静化(南薩 8, 曾於 5, 肝属 65, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:50 農場 ・繁殖:18 農場 ・肥育:32 農場) 曾於地区 ・一貫:5 農場(+1) ・繁殖:3 農場(+1) 北薩地区 ・一貫:1 農場 南薩地区 ・一貫:6 農場 ・繁殖:1 農場 ・肥育:4 農場 徳之島地区 ・一貫:1 農場	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1)湖南省邵陽市 78 歳男性。3/12 発症、3/18 入院。現在容態重症。
2014.3.19	●岡山県 PED 確定 合計 2(+1) 飼養頭数 800 頭 発症頭数 7 頭、死亡豚 0 頭 ●福岡県 PED 疑い 合計 1(+1) 福岡県八女市 子豚 51 頭発症(下痢や嘔吐)、うち 15 頭死亡。	
2014.3.18	●宮崎県 PED 合計 52(+2) 宮崎市 2 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場 えびの市 2 農場(+1) 川南町 5 農場	●米国 PED 2013.4～2014.3.8 総発生計 4,458 件。 2014.3.2～3.8 の週、274 件。アリゾナ州で新たに PED 確認、27 州で PED 発生。 アイオワ州 1,521 件 ミネソタ州(701 件)

	日南町 1農場 小林市 1農場(+1) ●鹿児島県 PED 合計:119 農場(+1 農場) 発生農場のうち, 72 農場で沈静化(南薩 6, 曾於 5, 肝属 60, 徳之島 1) ※沈静化: 発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) ※発症: 約 153,000 頭(繁殖: 約 12,000, 肥育: 約 95,000, 子豚: 約 46,000) ※死亡: 約 25,000 頭(ほぼ全て子豚) 肝属地区 ・一貫: 50 農場 ・繁殖: 18 農場 ・肥育: 32 農場) 曾於地区 ・一貫: 4 農場 ・繁殖: 2 農場(+1) 北薩地区 ・一貫: 1 農場 南薩地区 ・一貫: 6 農場 ・繁殖: 1 農場 ・肥育: 4 農場 徳之島地区 ・一貫: 1 農場	ノースカロライナ州(486 件) オクラホマ州(313 件) 肥育豚 979 件 哺乳豚(926 件) 子豚(848 件) 繁殖豚(423 件) 2013.4 月以降、全米で約 400 万頭以上の豚が処分された。 ●カナダ PED 2014.1.22～3.17 現在、合計 34 件確認。 ●メキシコ PED 2013.7～2014.2 13 州で発生。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 広東省仏山市 5 か月女児。発症前に広東省深圳市滞在。3/16 発症し、同日香港渡航、その後入院。3/17 に確定診断、現在容態安定。 (2) 広東省深圳市 71 歳女性。3/5 発症、3/15 入院。現在容態重。家さん接触歴あり。 (3) 広東省深圳市 73 歳男性。3/1 日発症、3/17 入院。現在容態重篤。家さん接触歴あり。 (4) 湖南省郴州市 75 歳女性。3/10 発症。入院中。現在容態安定。 http://www.forth.go.jp/topics/2014/03241010.html ●ベトナム(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 500 羽死亡、6,300 羽殺処理。 ●カンボジア(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 301 羽死亡、225 羽殺処理。
2014.3.17	●高知県 PED 合計 2(+1) 飼養頭数 約 500 頭 ●宮崎県 PED 合計 50(+1) 宮崎市 2 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場 えびの市 1 農場 川南町 5 農場 日南町 1 農場(+1)	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 安徽省合肥市 86 歳男性。3/7 発症、3/10 入院。現在容態重篤。 (2) 広東省深圳市 57 歳男性。3/8 発症、3/13 入院。現在容態重症。 http://www.forth.go.jp/topics/2014/03181406.html ●カンボジア H5N1 感染者確認 今年 9 例目(累計 56 人)の H5N1 感染者確認。
2014.3.16	●宮崎県 PED 合計 49(+1)、疑い 1 件(日南町) 宮崎市 2 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場(+2) えびの市 1 農場 川南町 5 農場(+1)	
2014.3.15	●宮崎県 PED 合計 48(+4)、疑い 1 件(日南町) 宮崎市 2 農場 串間市 2 農場 都城市 39 農場(+2) えびの市 1 農場 川南町 4 農場(+4)	
2014.3.14		●中国(低病原性鳥インフルエンザ H7N9) 合計 3 か所の生鳥マーケットで確認(6 例)。80,376 羽殺処理。 ●カンボジア H5N1 感染者 2 歳女児死亡。 ●韓国 犬が鳥インフル感染 中部、天安の養鶏場 飼養犬 1 頭 鳥インフルエンザウイルスの抗体陽性。

2014.3.13	●岡山県 PED 確定 合計1(初例) 飼養頭数 3,613 頭 発症頭数 1,042 頭、死亡豚 21 頭 ●鳥取県 PED 疑い 1 件(初症例) 琴浦町 1 農場(哺乳豚約 100 頭中 41 頭死亡) ●大分県 疑い 1 件(初症例) 日田市 1 農場 ●宮崎県 PED 合計 44(+1)、疑い 1 件(川南町) 宮崎市 2 農場(+1) 串間市2農場 都城市 39 農場(+2) えびの市1農場	
2014.3.12	●鹿児島県 PED 合計:118 農場(+1 農場) 発生農場のうち、53 農場で沈静化(南薩 3, 曾於 4, 肝属 45, 徳之島 1) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化ではない) 肝属地区 ・一貫:50 農場(+1) ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場) - 曾於地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 - 北薩地区 ・一貫:1 農場 - 南薩地区 ・一貫:6農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 - 徳之島地区 ・一貫:1農場	●オランダ(低病原性鳥インフルエンザ H5N2) 死亡なし、10,541 羽殺処理。
2014.3.11	●フィリピン向け 牛肉輸出を解禁 農水省 フィリピンへの国産牛肉の輸出が認められた。 輸出条件:特定部位(SRM)を含まない、フィリピン向け輸出施設で食肉処理をしたことを示す衛生証明書。月齢制限なし。 ●佐賀県 PED 疑い 合計 2(+1) 飼養頭数 約 2,700 頭 発症頭数 母豚 1 頭、哺乳豚約 390 頭が下痢症状(死亡哺乳豚 6 頭)	
2014.3.10	●岡山県 PED 疑い 合計1(初の疑い例) 飼養頭数 約 3,800 頭 発症頭数 480 頭(母豚約 20 頭、子豚 130 頭、肥育豚約 330 頭(死亡豚なし)) ●佐賀県 PED 疑い 合計1(初の疑い例) 飼養頭数 約 7,000 頭 発症頭数 哺乳豚約 1,400 頭が下痢症状(死亡哺乳豚 25 頭) ●鹿児島県 PED 合計:117 農場(+1 農場) 発症:約 143,000 頭(繁殖:約 11,000 頭、肥育:約 90,000 頭、子豚:約 42,000 頭) 死亡:約 25,000 頭(ほぼ全て子豚) 肝属地区 ・一貫:49 農場 ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場)	●1.18-3.10 韓国 高病原性鳥インフルエンザ (H5N8 型)あひる, 鶏 発症農場 28 発生農場周囲 143 農場と疫学関連 15 農場において同ウイルス検出。予防的殺処分を含め、約 1,090 万羽殺処分。 ●カンボジア H5N1 感染男児死亡 プノンペン H5N1 感染で入院中の 11 歳男児が死亡。8 歳男児は安定。

	曾於地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 北薩地区 ・一貫:1農場(+1) 南薩地区 ・一貫:6農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	
2014.3.8		●カンボジア(高病原性鳥インフルエンザ H5N1)Kampt、2歳女児、3月8日発症、3月14日死亡。
2014.3.7	高知県 PED 合計 2(+1) 発症した 450 頭のうち、母豚が最も多く 250 頭。次いで子豚 150 頭、肥育豚が 50 頭	香港 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 18 か月女児、軽い発熱で 2 月 28 日受診、3 月 1 日退院。 http://www.who.int/csr/don/2014_03_07/en/ ●エジプト(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) Demitta 行政区域、4 歳男児、3 月 7 日発症、3 月 12 日入院。
2014.3.6		●ベトナム(高病原性鳥インフルエンザ H5N1)2 件 660 羽死亡、7,583 羽殺処理。 ●エジプト(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) Behaira 行政区域、56 歳女性、3 月 6 日発症、3 月 9 日入院
2014.3.5	●鹿児島県 PED 合計:116 農場(+2 農場)) 肝属地区 ・一貫:49 農場(+2) ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場) 曾於地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 南薩地区 ・一貫:6農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●ベトナム(高病原性鳥インフルエンザ H5N1)2 件 600 羽死亡、610 羽殺処理。
2014.3.4	●愛知県 PED 合計 5(+1農場)) 1800 頭飼養、哺乳豚 130 頭発症、死亡:哺乳豚約 170 頭	●リビア(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 15 羽死亡、35 羽殺処理 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 59 歳男性、広東省珠海市、2 月 26 日発症、3 月 2 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_03_05/en/
2014.3.3	●宮崎県 PED 合計 43(+2) 宮崎市 1農場 串間市2農場 都城市 39 農場(+2) えびの市1農場 ●宮崎県 TGE 合計 3(+1) 川南町 2 農場 西都市 1 農場	●カンボジア 鳥インフルエンザ H5N1Kampong Chhnang、11 歳男児、3 月 3 日発症、3 月 6 日死亡。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 2 歳女児、浙江省金華市、2 月 23 日発症、軽症。 (2) 65 歳女性、広東省広州市、2 月 17 日発症、重篤。 (3) 42 歳男性、江蘇省淮安市、2 月 15 日発症、重症。 (4) 77 歳男性、湖南省永州市、2 月 20 日発症、

		重篤。 (5) 41 歳男性、湖南省永州市、2 月 17 日発症、重篤。 (6) 7 歳女兒、浙江省金華市、2 月 26 日発症、重症。 (7) 6 歳女兒、浙江省金華市、2 月 26 日発症、重症。 (8) 32 歳男性、広東省仏山市、2 月 20 日発症、重症。 http://www.who.int/csr/don/2014_03_03/en/
2014.3.2		●2.24-3.2 中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) 広東省 男女 4 人死亡。 ●カンボジア 鳥インフルエンザ H5N1 プノンペン 男児(3 歳) 死亡 ●中国 鳥インフルエンザ(H5N1 型) 雲南省玉溪市通海県 家さん ・状況:533,000 羽飼養, 29,000 羽発症, 29,000 羽死亡, 503,400 羽淘汰
2014.3.1	●愛知県 PED 合計 4(+1 農場)) 1800 頭飼養、哺乳豚 100 頭発症、死亡:哺乳豚約 280 頭	●ベトナム(高病原性鳥インフルエンザ H5N1)4 件 3,742 羽死亡、7,563 羽殺処理。
2014.2.28	●環境省 野鳥の高病原性鳥インフルエンザの保有状況について、1 月分の調査結果をまとめた。26 都道府県 27 市町で採取したガンカモ類のふんを採取した結果、高病原性鳥インフルエンザは検出されなかった。 ●ニュージーランド 農水省 ニュージーランドへの国産牛肉の輸出解禁(初)	
2014.2.27		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 (1) 31 歳男性、広東省江門市、2 月 16 日発症、安定。 (2) 76 歳男性、広東省広州市、2 月 16 日発症、重篤。 (3) 55 歳女性、広東省広州市、2 月 19 日発症、重篤。 (4) 75 歳女性、広東省広州市、2 月 16 日発症、重篤。 (5) 33 歳男性、広東省仏山市、2 月 17 日発症、重篤。 (6) 72 歳男性、広東省仏山市、2 月 16 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_27/en/ http://www.who.int/csr/don/2014_02_27b/en/
2014.2.26	●愛知県 合計 3(+1 農場)) 3 件目 1100 頭飼養、哺乳豚 300 頭発症、死亡:哺乳豚約 210 頭	●1.28-2.26 韓国(高病原性鳥インフルエンザ H5N8)12 件 12,067 羽死亡、309,213 羽殺処理。 ●オランダ フレボランド州 低病原性鳥インフルエンザ(H5N1 型)が発生 死亡なし、40,237 羽殺処理。
2014.2.25	●高知県 PED 疑い 合計1 ●鹿児島県 PED 合計:114農場(+1農場)) 発症頭数:約 30,000 頭, 死亡頭数:約 2,800 頭(ほぼ全て子豚) 平成 26 年 2 月 5 日現在, 107 農場で発生を確認(うち 30 農場で沈静化を確認) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化を示すものではない)	●韓国 HPAI(H5N8 型)計 126 農場において発生。予防的殺処分を含め、約 600 万羽殺処分。

	肝属地区 ・一貫:47農場 ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場) 曾於地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 南薩地区 ・一貫:6農場(+1) ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 ●米国ニュージャージー州で低病原性鳥インフルエンザ発生。同州から日本向けに輸出される家きん、家きん肉等の輸入停止	
2014.2.24	●米国ペンシルバニア州から日本向けに輸出される家きん、家きん肉等輸入停止(平成 25 年 11 月 7 日付け～)。同州における低病原性鳥インフルエンザの清浄性が確認。輸入停止措置解除	●カンボジア(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 83 羽死亡、117 羽殺処理。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) 広東省肇慶市 女性 1 人死亡。2013 年 3 月に同型による初の死者が出て以降、死者計 100 人。2014 年に入って急増 50 人目。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 64 歳男性、湖南省邵陽市、2 月 9 日発症、重篤。 (2) 29 歳女性、湖南省長沙市、2 月 8 日発症、重篤。 (3) 79 歳男性、広東省仏山市、2 月 10 日発症、重篤。 (4) 60 歳男性、安徽省宣城市、2 月 13 日発症、重篤。 (5) 81 歳男性、広東省広州市、2 月 7 日発症、重篤。 (6) 46 歳女性、広東省肇慶市、2 月 13 日発症、重篤。 (7) 64 歳男性、広東省広州市、2 月 9 日発症、重篤。 (8) 69 歳男性、広東省江門市、2 月 10 日発症、重篤。 (9) 50 歳男性、吉林省、2 月 15 日発症、安定。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_24/en/ ●カンボジア 高病原性鳥インフルエンザ H5N1 Kandal、8 歳男児、2 月 24 日発症、3 月 4 日入院。
2014.2.23		●2.18-23 ベトナム(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 3 件 2,403 羽死亡、550 羽殺処理。
2014.2.22		●2.2-23 中国(低病原性鳥インフルエンザ H7N9) 計 3 か所の生鳥マーケットで確認(3 例)。82 羽殺処理。 ●カンボジア 高病原性鳥インフルエンザ H5N1 プノンペン、3 歳男児、2 月 22 日発症、3 月 2 日死亡。
2014.2.21	愛知県 PED 合計2(+1農場)) 2 件目 一貫 肥育豚 10 頭発症(元気消失、食欲減退、嘔吐、軽度軟便)、死亡:哺乳豚約 200 頭	●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) 東北部・吉林省長春市 男性(50) H7N9 型鳥フル感染。東北部初感染。男性は鳥類の飼育業従事。

2014.2.20	●青森県 PED 疑い 合計1 発生頭数 30 等、哺乳豚 30 頭死亡(哺乳豚頭数計 1140 頭) ●宮崎県 PED 合計41(+1) 宮崎市 1農場 串間市2農場 都城市37農場(+1) えびの市1農場	●ベトナム 鳥インフルエンザ H5N1 型 計 7 地域の農村で発生 10,356 羽死亡、9,606 羽殺処理。 ●2.3-2.20 モンゴル 口蹄疫(A 型)計 11 箇所の牛飼養農場で口蹄疫(A 型)が発生
2014.2.19		●2.18-19 カンボジア 鳥インフルエンザ H5N1 型 計 2 地域の農村で発生 410 羽死亡、290 羽殺処理。
2014.2.18	●JA 宮崎 豚流行性下痢ワクチン助成 豚流行性下痢(PED)ワクチン購入費の 1/3 助成。 助成期間は2015年3月末まで。母豚計2万5000頭分。 ●ポーランド共和国でアフリカ豚コレラの発生確認(野生イノシシに対するサーベイランスの結果)のため、日本向けに輸出される豚(イノシシを含む。)肉等の輸入停止。 ●日本からメキシコ向けに牛肉が輸出可。	●ネパール(高病原性鳥インフルエンザ H5N1) 1 件アウトブレイク発生。570 羽死亡、1,430 羽殺処理。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 78 歳男性、広東省広州市、2 月 7 日発症、2 月 14 日死亡。 (2) 66 歳女性、広東省江門市、1 月 27 日発症、情報なし(入院中)。 (3) 14 歳女性、安徽省安慶市、2 月 12 日発症、情報なし(入院中)。 (4) 46 歳男性、湖南省婁底市、1 月 31 日発症、情報なし(入院中)。 (5) 4 歳女児、広東省広州市、2 月 11 日発症、情報なし(入院中)。 (6) 79 歳男性、広東省広州市、2 月 4 日発症、重篤。 (7) 84 歳男性、江蘇省淮安市、2 月 4 日発症、重症。 (8) 63 歳男性、安徽省合肥市、2 月 9 日発症、重症。 (9) 44 歳男性、広東省深セン市、2 月 3 日発症、重症。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_18/en/ ●ポーランド共和国 アフリカ豚コレラ発生 日本向けに輸出される豚(イノシシを含む。)肉等の輸入停止。 ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ H5N8 ・発生日:1 月 16 日～ ・発生場所:全羅北道, 全羅南道, 忠清南道, 忠清北道, 慶尚南道, 京畿道 ・件数:20 件(初発からの累計) ・血清型:H5N8 高病原性 ・動物種:あひる, 鶏 ・野鳥:トモエガモ, ヒシクイ, オオバン, マガモ, マガン, コハクチョウ, コガモ, 糞便等, 計 24 件 ・他に, 発生農場周囲 56 農場と疫学関連 1 農場において, H5N8 鳥インフルエンザを検出。
2014.2.17	●愛知県 PED 確定 合計1 哺乳豚 10 頭死亡 ●鹿児島県 PED 合計:113農場(+1農場)) 発症頭数:約 30,000 頭, 死亡頭数:約 2,800 頭(ほぼ全て子豚) 平成 26 年 2 月 5 日現在, 107 農場で発生を確認(うち 30 農場で沈静化を確認) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内	●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 84 歳男性、浙江省金華市、2 月 6 日発症、重篤。 (2) 58 歳男性、浙江省杭州市、1 月 29 日発症、重症。 (3) 46 歳男性、浙江省杭州市、2 月 4 日発症、重症。 (4) 8 歳男児、広東省肇慶市、2 月 6 日発症、軽

	のウイルスの清浄化を示すものではない) 肝属地区 ・一貫:47農場 ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場) 曾於地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場(+1) 南薩地区 ・一貫:5農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	症。 (5) 46 歳男性、広東省広州市、2 月 4 日発症、重篤。 (6) 65 歳男性、広東省広州市、2 月 3 日発症、重篤。 (7) 19 歳男性、湖南省婁底市、1 月 28 日発症、重症。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_17_ah7n9/en/
2014.2.15		●中国(低病原性鳥インフルエンザ H7N9)計 2 か所の生鳥マーケットで確認(2 例)。160 羽殺処理。
2014.2.14	●宮崎県 PED 合計40 宮崎市 1農場(+1) 串間市2農場 都城市36農場 えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:112農場(+1農場)) 発症頭数:約 30,000 頭, 死亡頭数:約 2,800 頭(ほぼ全て子豚) 平成 26 年 2 月 5 日現在, 107 農場で発生を確認(うち 30 農場で沈静化を確認) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化を示すものではない) 肝属地区 ・一貫:47農場(+1) ・繁殖:18農場 ・肥育:32農場) 曾於地区 ・一貫:4農場 南薩地区 ・一貫:5農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 ●熊本県 PED 合計:5農場 ●沖縄県 PED 合計:3農場	●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型)広東省 感染者が新たに 2 人確認。 今年に入っての感染者は、香港などで確認された 4 人を含め計 200 人。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 67 歳男性、浙江省嘉興市、2 月 3 日発症、重篤。 (2) 47 歳女性、浙江省温州市、2 月 3 日発症、重症。 (3) 62 歳男性、浙江省麗水市、1 月 29 日発症、重篤。 (4) 56 歳男性、安徽省阜陽市、2 月 3 日発症、2 月 7 日死亡。 (5) 5 歳女児、広東省広州市、2 月 1 日発症、回復。 (6) 70 歳男性、浙江省杭州市、2 月 5 日発症、重篤。 (7) 23 歳男性、湖南省婁底市、2 月 8 日発症、重症。 (8) 65 歳男性、香港市、2 月 8 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_14/en/ ●2.10-14 ベトナム 鳥インフルエンザ H5N1 高病原性 4 件 家さん ・状況:12,946 羽飼養, 9,378 羽発症, 2,711 羽死亡, 10,175 羽淘汰
2014.2.13	●宮崎都城市 PED 6か所に設置している消毒ポイントを3月まで継続 ●牛の被ばく量と DNA 損傷の関係 一般社団法人家畜と農地の管理研究会とサウスカロライナ大学は、福島第一原発 20km 圏内において飼養管理されている牛の被ばく量と DNA 損傷の関係を明らかにする共同研究を開始。	●ネパール 鳥インフルエンザ H5N1 高病原性 1 件 ●中国 鳥インフルエンザ H5N1 高病原性 貴州省安順市 1 件 家さん ・状況:324,268 羽飼養, 3,629 羽発症, 976 羽死亡, 323,292 羽淘汰 ●米国 新興感染症対策 新型インフルエンザなどの新興感染症やバイオテロの猛威に対応するため、米政府は日本など 27 カ国が参加して監視ネットワークの強化や情報共有の円滑化を図る新たな国際強力の枠組みを発足させる。米疾病対策センターを中心にホワイトハウスや国防総省のテロ対策部門が関わる。

		①危険な病原体の出現やテロへの悪用を防ぐ ②猛威を早期検知し情報共有する ③緊急時対応を迅速化・効率化する。
2014.2.12	●宮崎県 PED 合計39 串間市2農場 都城市36農場(+1) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:111農場(+4農場)) 発症頭数:約 30,000 頭, 死亡頭数:約 2,800 頭(ほぼ全て子豚) 平成 26 年 2 月 5 日現在, 107 農場で発生を確認(うち 30 農場で沈静化を確認) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化を示すものではない) 肝属地区 ・一貫:46農場(+2) ・繁殖:18農場(+1) ・肥育:32農場) 曾於地区 ・一貫:4農場(+1) 南薩地区 ・一貫:5農場(+1) ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 ●熊本県 PED 合計:5農場(+1) ●沖縄県 PED 合計:3農場 ●愛知県 PED 疑い(PCR+) 合計1 2,000 頭飼養、発症肥育 20 頭、死亡:哺乳豚約 300 頭	●カンボジアで H5N1 鳥インフルエンザ 7 歳と 3 歳の兄妹死亡。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型)中国本土で 1 月に H7N9 型 AI による死亡者が 31 人に達した。 ●ロシア ロ蹄疫 A 型 ザバイカリエ地方オノン地区(中国, モンゴルとの国境付近) ・動物種:牛 2,009 頭, 羊/山羊 2,711 頭, 豚 92 頭・症例数:牛 5 頭
2014.2.11		●2.7-11 ベトナム 鳥インフルエンザ H5N1 高病原性 合計 6 件のアウトブレイク発生。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 (1) 53 歳男性、浙江省台州市、2 月 1 日発症、重症。 (2) 61 歳男性、浙江省杭州市、1 月 29 日発症、重篤。 (3) 38 歳男性、湖南省邵陽市、1 月 27 日発症、重篤。 (4) 81 歳女性、広東省深セン市、1 月 31 日発症、2 月 7 日死亡。 (5) 11 歳男児、広東省肇慶市、2 月 5 日発症、安定。 (6) 68 歳男性、浙江省紹興市、2 月 5 日発症、重症。 (7) 66 歳男性、安徽省安慶市、2 月 1 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_11/en/
2014.2.10	●宮崎県 PED 合計38 農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市35農場(+1) えびの市1農場 ●都城市 PED 消毒ポイント増設 都城市 路上消毒ポイントを1か所から6か所に増。 増設ポイント 上水流町の国道221号(宮崎くみあいチキンフーズ南部工	●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型)広東省、浙江、湖南 3 省 新たな感染者が計 7 人確認。 ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 64 歳男性、浙江省湖州市、1 月 27 日発症、重症。 (2) 39 歳男性、浙江省湖州市、1 月 26 日発症、重症。 (3) 66 歳男性、江蘇省塩城市、1 月 22 日発症、重篤。

	場付近) 山田町山田の県道42号(かかし館付近) 高崎町大牟田の高崎総合支所前の市道 高城町石山の国道10号(石山工業団地) 山之口町富吉の県道47号(山之口畜産センター)の5か所。 28日まで設置し、午前7時から午後7時まで(山之口町は午後6時まで)、市職員が豚や飼料を運ぶトラックなどを誘導、車体に消毒液噴霧。	(4) 63 歳男性、江蘇省徐州市、1 月 20 日発症、重篤。 (5) 61 歳女性、湖南省岳陽市、1 月 29 日発症、重篤。 (6) 36 歳女性、広東省仏山市、1 月 25 日発症、重篤。 (7) 5 歳男児、広西チワン族自治区南寧市、2 月 3 日発症、軽症。 (8) 73 歳男性、北京市、1 月 30 日発症、重篤。 (9) 54 歳男性、浙江省杭州市、2 月 1 日発症、重症。 (10) 76 歳女性、浙江省台州市、1 月 24 日発症、重篤。 (11) 81 歳男性、福建省福州市、1 月 30 日発症、重症。 (12) 21 歳女性、湖南省婁底市、1 月 30 日発症、重篤。 (13) 48 歳男性、広東省肇慶市、1 月 28 日発症、重症。 (14) 62 歳男性、広東省肇慶市、2 月 1 日発症、重症。 (15) 59 歳女性、広東省広州市、1 月 27 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_10/en/ ●WHO 鳥インフルエンザ H7N9 2013 年 10 月以降の患者数:220 名(うち死者数:21 名)
2014.2.7	●宮崎県 合計37 農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市34農場(+2) えびの市1農場	●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型)中国本土と香港を合わせて 172 人(うち 35 人死亡) ●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型) (1) 67 歳男性、浙江省紹興市、1 月 28 日発症、重症。 (2) 35 歳女性、浙江省温州市、1 月 23 日発症、重症。 (3) 59 歳女性、浙江省杭州市、1 月 21 日発症、重症。 (4) 49 歳男性、浙江省杭州市、1 月 21 日発症、重篤。 (5) 36 歳男性、福建省泉州市、1 月 30 日発症、重篤。 (6) 5 歳女児、広東省肇慶市、1 月 30 日発症、軽症。 (7) 42 歳男性、広東省肇慶市、1 月 27 日発症、重篤。 (8) 49 歳男性、広東省仏山市、1 月 26 日発症、重症。 (9) 56 歳男性、広東省深セン市、1 月 29 日発症、重篤。 (10)41 歳女性、広西チワン族自治区南寧市、1 月 27 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_07/en/ ●カンボジア 高病原性 鳥インフルエンザ H5N11 件 家きん 5,250 羽飼養, 4,466 羽発症・死亡, 784 羽淘汰 ●ロシア ロ蹄疫(O型)1 件 ザバイカリエ地方 プリアルグンスク地区 Starotsuruhaitui 村(中国国境付近) ・動物種:牛(724 頭), 羊/山羊(5,368 頭), 豚

		(2,256 頭)・症例数:牛 5 頭 ・感染源:不明, 調査中 【対応】・隔離, 国内における移動制限・部分淘汰・施設等の消毒・ワクチン接種
2014.2.6	●メキシコに輸出解禁 「日本産牛肉」 農水省、メキシコに対する国産牛肉の輸出承認。日本が口蹄疫の清浄国で、BSE の危険性がないことが認められたことから。主な輸出条件は、日本で生まれ飼育された牛、メキシコ政府当局(SAGARPA)認定輸出施設での処理が必須。月齢制限なし。	●1/19-2/6 韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型) 11 件のアウトブレイク発生。 11,080 羽死亡、140,620 羽殺処理。ニワトリまたはアヒル。
2014.2.5	●スマホで牧場経営 個体管理アプリ「Farmnote」 株式会社ファームノート アプリ「Farmnote」を 3 月 10 日より提供。 タッチ操作で「簡単」に個体情報登録。牛の「疾病・投薬履歴」「種付け・繁殖履歴」「肉牛の肥育成績」「乳牛の搾乳成績」を管理可能。カレンダーで「作業予定」管理、牛リスト表示。経営指針と実績比較をリアルタイムに把握可能。 Farmnote は 3 月 10 日に北海道帯広市で開催される農業 IT イベント「ファームノートサミット 2014」で発表。 http://cloud.watch.impress.co.jp/docs/news/20140205_633901.html ●宮崎県 PED 合計35 農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市32農場(+3) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:107農場(+2農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 発症頭数:約 30,000 頭, 死亡頭数:約 2,800 頭(ほぼ全て子豚) 平成 26 年 2 月 5 日現在, 107 農場で発生を確認(うち 30 農場で沈静化を確認) ※沈静化:発症・死亡豚が確認されなくなった状態(農場内のウイルスの清浄化を示すものではない) 肝属地区 ・一貫:44農場(+1) ・繁殖:17農場(+1) ・肥育:32農場(+1) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:4農場(+1) 南薩地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 ●熊本県 PED 合計:4農場(+3) 豚流行性下痢(PED)(新たな地域での発生) ●沖縄県 PED 合計:3農場(+2) 豚流行性下痢(PED)(新たな地域での発生)	●ロシア アフリカ豚コレラ発生情報 コーカサス地方 ・ウクライナ(野生いのしし1件) ・リトアニア(野生いのしし2件) ・ロシア(豚4件, 野生いのしし1件) ●1/1-2/5 中国 鳥インフルエンザ H7N9 型猛威 161 人(含香港) 約 1 ヶ月で昨年 1 年分を越えた。 2013 年春以降の感染者計 310 人(死亡者 81 人)。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 12 名 (1) 27 歳男性、福建省邵武市、1 月 21 日発症、重篤。 (2) 59 歳男性、湖南省婁底市、1 月 23 日発症、2 月 3 日死亡。 (3) 2 歳女兒、広東省中山市、1 月 31 日発症、軽症。 (4) 76 歳女性、広東省惠州市、1 月 27 日発症、重症。 (5) 42 歳男性、浙江省杭州市、1 月 25 日発症、重症。 (6) 84 歳男性、浙江省杭州市、1 月 24 日発症、重篤。 (7) 56 歳男性、浙江省金華市、1 月 24 日発症、重篤。 (8) 51 歳男性、浙江省紹興市、1 月 27 日発症、重篤。 (9) 4 歳女兒、広東省肇慶市、1 月 26 日発症、軽症。 (10) 76 歳男性、広東省陽江市、1 月 27 日発症、2 月 3 日死亡。 (11) 52 歳男性、広東省惠州市、1 月 25 日発症、2 月 3 日死亡。 (12) 59 歳女性、江蘇省無錫市、1 月 26 日発症、軽症。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_05bis/en/index.html ●中国 インフルエンザウイルス J. Virol.10.1128/JVI.03292-13 Open Access. H6 influenza viruses pose a potential threat to human health. Guojun Wang, et al. 中国南東部 12 省・市(広東省、安徽省、上海市など)の生鳥市場および殺場で、2008 年～2011 年の期間に収集した、9,305 のサンプルからウイルスを分離した。得られたウイルスは以下の通り。H1 (9 株)、H3 (134 株)、H4 (302 株)、H5 (285 株)、H6 (1,145 株)、H7 (15 株)、H9 (1,881 株)、H10 (44 株)、H11 (31 株)。

2014.2.4		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 5 名 (1) 44 歳男性、浙江省台州市、1 月 28 日発症、重症。 (2) 8 歳女兒、湖南省永州市、1 月 30 日発症、重症。 (3) 35 歳男児、福建省廈門市、1 月 27 日発症、重症。 (4) 37 歳男性、広東省中山市、1 月 26 日発症、重篤。 (5) 63 歳男性、広東省深セン市、1 月 27 日発症、2 月 1 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_04/en/index.html
2014.2.3	●宮崎県 PED 合計32 農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市29農場(+2) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:104農場(+2農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:43農場 ・繁殖:16農場 ・肥育:31農場(+1) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:4農場(+1) 南薩地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 9 名 (1) 80 歳男性、浙江省杭州市、1 月 19 日発症、重篤。 (2) 54 歳男性、浙江省杭州市、1 月 23 日発症、重篤。 (3) 6 歳男児、広東省深セン市、1 月 27 日発症、港湾検疫で検出、軽症。 (4) 5 歳男児、広東省肇慶市、1 月 29 日発症、安定。 (5) 28 歳男性、広東省肇慶市、1 月 24 日発症、重篤。 (6) 82 歳男性、広東省仏山市、1 月 22 日発症、重篤。 (7) 59 歳男性、広東省広州市、1 月 22 日発症、1 月 30 日死亡。 (8) 81 歳女性、広東省深セン市、1 月 25 日発症、重症。 (9) 38 歳男性、湖南省永州市、1 月 24 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_02_03/en/index.html ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型) 家さん 3日までに 24 戸発生 2日までに 106 戸約 250 万羽を殺処分。さらに約 26 万羽の殺処分予定(3日現在)。 ・発生場所:全羅北道, 全羅南道, 忠清南道, 忠清北道, 慶尚南道, 京畿道・動物種:あひる, 鶏 ・野鳥:トモエガモ 10 件, ヒシクイ 3 件, オオバン 1 件, マガモ 2 件, 糞便等 2 件
2014.2.2		●中国、鳥インフルエンザ(H7N9 型) 新たに 4 人 広東、浙江、湖南 3 省、新たな感染者が計 4 人確認
2014.2.1	●宮崎県 PED 合計30 農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2場 都城市27農場(+2) えびの市1農場	●中国 鳥インフルエンザ H5N1 型ウイルス 感染者 広西チワン族自治区。重症。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 7 名 (1) 75 歳男性、浙江省寧波市、1 月 21 日発症、重篤。 (2) 76 歳男性、浙江省寧波市、1 月 21 日発症、重篤。 (3) 78 歳男性、浙江省杭州市、1 月 25 日発症、重篤。 (4) 64 歳男性、浙江省寧波市、1 月 13 日発症、重篤。

		(5) 75 歳女性、江蘇省南京市、1 月 18 日発症、重篤。 (6) 67 歳女性、広東省江門市、1 月 24 日発症、1 月 28 日死亡。 (7) 56 歳女性、広西チワン族自治区賀州市、1 月 20 日発症、重篤 http://www.who.int/csr/don/2014_02_01/en/index.html
2014.1.31	●宮崎県 合計28農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市25農場(+6) えびの市1農場 ●鹿児島県 合計:102農場(+9農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:43農場(+6) ・繁殖:16農場(+1) ・肥育:30農場(+2) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場 南薩地区 ・一貫:4農場 ・繁殖:1農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●インド 鳥インフルエンザ H5N1 高病原性 1 件のアウトブレイク確認。2 羽死亡、殺処理なし。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 7 名 (1) 37 歳男性、浙江省温州市、1 月 19 日発症、重篤。 (2) 60 歳男性、浙江省杭州市、1 月 23 日発症、重症。 (3) 63 歳男性、浙江省杭州市、1 月 24 日発症、重症。 (4) 2 歳男児、福建省廈門市、1 月 26 日発症、軽症。 (5) 17 歳男性、広東省広州市、1 月 22 日発症、重症。 (6) 75 歳男性、香港市民、深セン市に旅行中 1 月 26 日発症、1 月 29 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_31/en/index.html ●モンゴル 口蹄疫 A 型 スフバートル県、ヘンティール県、ドルノゴビ県(中国国境付近)症例数詳細不明
2014.1.30		●中国 鳥インフルエンザ(H7N9 型)北京市 感染した男性死亡。H7N9 型 AI による北京市の死者は初めて。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 15 名 (1) 61 歳女性、上海市、1 月 06 日発症、重篤。 (2) 66 歳女性、浙江省紹興市、1 月 15 日発症、重篤。 (3) 71 歳女性、浙江省杭州市、1 月 12 日発症、重症。 (4) 71 歳男性、浙江省温州市、1 月 13 日発症、重症。 (5) 59 歳男性、浙江省寧波市、1 月 18 日発症、重症。 (6) 63 歳女性、浙江省湖州市、1 月 11 日発症、重篤。 (7) 34 歳女性、広東省深セン市、1 月 10 日発症、重篤。 (8) 53 歳男性、江蘇省淮安市、1 月 22 日発症、重症。 (9) 43 歳女性、浙江省杭州市、1 月 23 日発症、軽症。 (10) 81 歳男性、浙江省湖州市、1 月 21 日発症、重篤。 (11) 63 歳女性、浙江省湖州市、1 月 22 日発症、重症。 (12) 57 歳男性、浙江省寧波市、1 月 15 日発症、軽症。 (13) 43 歳女性、広東省深セン市、1 月 17 日発

		症、重症。 (14) 41 歳女性、広東省深セン市、1 月 20 日発症、重篤。 (15) 31 歳女性、広東省深セン市、1 月 16 日発症、重篤 http://www.who.int/csr/don/2014_01_30/en/index.html
2014.1.29		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 6 名 (1) 74 歳女性、江蘇省蘇州市、1 月 15 日発症、重篤。 (2) 58 歳女性、湖南省岳陽市、1 月 20 日発症、重篤。 (3) 69 歳男性、福建省廈門市、1 月 17 日発症、重篤。 (4) 72 歳男性、福建省三明市、1 月 21 日発症、重篤。 (5) 77 歳女性、広東省深セン市、1 月 17 日発症、重篤。 (6) 68 歳男性、広東省江門市、1 月 18 日発症、1 月 25 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_29/en/index.html
2014.1.28	●宮崎県 PED 合計22農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市19農場(+3) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:93農場(+6農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:37農場(+2) ・繁殖:15農場(+1) ・肥育:28農場(+1) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場 南薩地区 ・一貫:4農場(+1) ・繁殖:1農場(+1) ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●1/17-1/28 中国(低病原性 AIH7N9)生鳥市場サーベイランスで確認。合計 158,823 羽殺処理。 ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型)合計 60 戸で 155 万 1000 羽を殺処分。さらに 10 戸 53 万 1000 羽の処分予定。1 月 31 日の旧正月、感染拡大の危機が高い。1 月 30 日～2 月 5 日に全国の市場で生きた鶏、アヒルの販売を中止。市場を一斉消毒をした。
2014.1.27	●宮崎県 PED 合計19農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市16農場(+1) えびの市1農場	●モンゴル 口蹄疫(A 型)3 件 スフバートル県 オンゴン群(モンゴル東部、中国国境付近) (1)First bag KHur の農場 (2)3th bag Gun khudag の農場 (3)First bag Shandi in SHovgor の農場 ・発生日:(1)2014 年 1 月 26 日 (2)2014 年 1 月 26 日 (3)2014 年 1 月 27 日 ・OIE への報告日:2014 年 2 月 1 日 ・動物種:牛 ・飼養頭数:(1)281 頭, (2)115 頭, (3)493 頭 ・症例数:(1)25 頭, (2)21 頭, (3)30 頭 ・淘汰数:(1)21 頭, (2)一, (3)28 頭 【疫学情報】・感染源:不明, 調査中 【診断】ELISA, RT-PCR:陽性 【対応】・隔離・部分淘汰・施設等の消毒・隔離, 国内における移動制限・ワクチン接種予定

		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 9 名 (1) 49 歳男性、浙江省湖州市、1 月 16 日発症、重症。 (2) 60 歳女性、浙江省寧波市、1 月 19 日発症、重症。 (3) 48 歳女性、浙江省寧波市、1 月 20 日発症、重症。 (4) 57 歳男性、江蘇省蘇州市、1 月 16 日発症、重症。 (5) 46 歳女性、福建省泉州市、1 月 18 日発症、重篤。 (6) 82 歳男性、広東省深セン市、1 月 11 日発症、重篤。 (7) 76 歳男性、江蘇省無錫市、1 月 18 日発症、重症。 (8) 40 歳男性、浙江省杭州市、1 月 19 日発症、重篤。 (9) 65 歳男性、浙江省湖州市、1 月 16 日発症、重症。 これで今年に入ってから香港の 1 人を含め感染者は 102 人。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_27/en/index.html ●香港（低病原性鳥インフルエンザ H7N9） 中国広東省仏山市の指定農場から輸入した生きたニワトリが（H7）型の鳥インフルエンザウイルスに感染。2,600 羽確認、22,604 羽殺処理。 ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ（H5N8 亜型） 43 農場のアヒルなど約 64 万 4 千羽を殺処分。畿道と中部の忠清道地域で畜産従事者らの移動禁止措置。
2014.1.26		●中国 鳥インフルエンザ（H10N8）2 人目 江西省 Xinhuanet News Agency, English News http://news.xinhuanet.com/english/china/2014-01/26/c_133075311.htm ●中国（低病原性 H7N9）サーベイランスで確認。農産物市場 2 か所で、合計 3 例、1,200 羽殺処理。
2014.1.25		●ロシア ロ蹄疫（A 型）ザバイカリエ地方プリアルグンスク地区（中国との国境付近） ・飼養頭数：牛 1,976 頭、羊/山羊 10,670 頭、豚 1,205 頭・症例数：牛 7 頭・対応：淘汰、国内における移動制限、施設等の消毒実施・感染源：不明、調査中 ●韓国 高病原性鳥インフルエンザ（H5N8 亜型）鶏と渡り鳥の糞便から AIV 確認。最初に発見されたカモ農場から 150km の農場 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 10 名 (1) 58 歳男性、北京市、1 月 12 日発症、重篤。 (2) 78 歳女性、浙江省寧波市、1 月 17 日発症、重篤。 (3) 44 歳女性、浙江省寧波市、1 月 17 日発症、重症。 (4) 23 歳女性、浙江省杭州市、1 月 20 日発症、重症。 (5) 82 歳女性、浙江省杭州市、1 月 16 日発症、

		重篤。 (6) 73 歳男性、浙江省紹興市、1 月 18 日発症、重篤。 (7) 62 歳女性、浙江省紹興市、1 月 15 日発症、重篤。 (8) 33 歳男性、浙江省紹興市、1 月 17 日発症、重篤。 (9) 58 歳女性、広東省惠州市、1 月 10 日発症、重篤。 (10) 52 歳男性、広東省梅州市、1 月 14 日発症、重篤 http://www.who.int/csr/don/2014_01_25/en/index.html
2014.1.24		●中国 浙江省杭州市中心部、生きた鳥の取引を 24 日から全面停止
2014.1.23	●宮崎県 PED 合計18農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市15農場(+2) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:87農場(+5農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:35農場(+3) ・繁殖:15農場(+1) ・肥育:27農場(+1) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場 南薩地区 ・一貫:2農場 ・肥育:4農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●1/17-1/23 韓国(HPAIV H5N8)5 件のアウトブレイク確認。2,280 羽死亡、59,120 羽殺処理。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 10 名 (1) 71 歳男性、江蘇省南京市、1 月 10 日発症、重篤。 (2) 57 歳男性、浙江省台州市、1 月 08 日発症、重篤。 (3) 70 歳男性、浙江省紹興市、1 月 10 日発症、重症。 (4) 49 歳男性、浙江省杭州市、1 月 13 日発症、重症。 (5) 39 歳女性、広東省深セン市、1 月 13 日発症、重症。 (6) 59 歳女性、広東省深セン市、1 月 13 日発症、重篤。 (7) 76 歳女性、広東省深セン市、1 月 09 日発症、重篤。 (8) 53 歳男性、浙江省台州市、1 月 09 日発症、重篤。 (9) 71 歳男性、浙江省台州市、12 月 31 日発症、重篤。 (10) 63 歳女性、浙江省台州市、1 月 09 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_23/en/index.html
2014.1.22	●宮崎県 PED 合計16農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市13農場(+2) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:82農場(+7農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:32農場(+3) ・繁殖:14農場(+1) ・肥育:26農場(+1) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場 南薩地区 ・一貫:2農場(+1) ・肥育:4農場(+1)	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 5 名 (1) 31 歳男性、上海市、1 月 11 日発症、1 月 18 日死亡。 (2) 77 歳男性、上海市、1 月 10 日発症、1 月 18 日死亡。 (3) 71 歳女性、浙江省杭州市、1 月 12 日発症、重篤。 (4) 63 歳男性、浙江省嘉興市、1 月 12 日発症、重症。 (5) 55 歳男性、浙江省寧波市、1 月 11 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_22/en/index.html

	徳之島地区 ・一貫:1農場	
2014.1.21	●熊本県 PED 合計:1農場(初発) 豚流行性下痢(PED)疑い 人吉市1一貫農場(疑い)	●韓国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N8 亜型) 全羅北道扶安郡、肉用あひる農場、3 例目発生 全羅北道高敞郡、死亡野鳥 全羅北道高敞郡、肉用あひる農場、新たに疑い事例が発生 ・件数(累計):5 件(H5N8 高病原性)、3 件(H5N8 病原性確認中) ・動物種:あひる ・野鳥:トモエガモ 24 羽(H5N8 高病原性)、トモエガモ 57 羽・ヒシクイ 3 羽(H5N8 病原性確認中) ・さらに複数農場、複数の野鳥で検査中 http://www.maff.go.jp/j/syouan/douei/tori/pdf/140120_1010_kr_ai_press_plusrm.pdf
2014.1.20	●宮崎県 PED 合計14農場 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 串間市2農場 都城市11農場(+1) えびの市1農場 ●鹿児島県 PED 合計:75農場(+6農場) 豚流行性下痢(PED)発生(新たな地域での発生) 肝属地区 ・一貫:29農場(+6) ・繁殖:13農場 ・肥育:25農場 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場 南薩地区 ・一貫:1農場 ・肥育:3農場 徳之島地区 ・一貫:1農場	●台湾 鳥インフルエンザ H7N9 型 男性死亡 台湾、中国人男性(86)、中国江蘇省から 2013 年 12 月に団体旅行で台湾を訪れた後、鳥インフルエンザウイルス(H7N9 型)感染が確認され肺炎などのため死亡。 ●ベトナム 鳥インフルエンザ H5N1 型 男性死亡 中部ビンフック省、52 歳男性、H5N1 型の鳥インフルエンザウイルスに感染し、1 月 11 日発症、1 月 18 日死亡。2014 年最初の(9 か月ぶり)H5N1 感染患者確認。(20 Jan 2014、Xinhua, English News) ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 16 名 (1) 38 歳男性、貴州省出身、浙江省温州市から帰宅後 1 月 3 日発症、1 月 9 日死亡。 (2) 59 歳男性、広東省広州市、1 月 06 日発症、重症。 (3) 20 歳女性、浙江省杭州市、1 月 07 日発症、重篤。 (4) 58 歳男性、浙江省台州市、1 月 07 日発症、重篤。 (5) 30 歳男性、福建省泉州市、1 月 09 日発症、重篤。 (6) 60 歳男性、福建省泉州市、1 月 10 日発症、重症。 (7) 76 歳女性、広東省仏山市、1 月 12 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_20/en/index.html (8) 54 歳男性、上海市、1 月 03 日発症、重篤。 (9) 66 歳男性、浙江省湖州市、1 月 07 日発症、重篤。 (10) 54 歳男性、浙江省湖州市、1 月 06 日発症、重篤。 (11) 62 歳男性、浙江省杭州市、1 月 04 日発症、重篤。 (12) 35 歳男性、浙江省寧波市、1 月 07 日発症、重篤。 (13) 72 歳女性、浙江省杭州市、1 月 09 日発症、重症。

		(14) 69 歳男性、浙江省紹興市、1 月 13 日発症、重篤。 (15) 38 歳女性、福建省晋江市、1 月 09 日発症、重篤。 (16) 54 歳男性、福建省寧徳市、1 月 08 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_20bis/en/index.html
2014.1.178	●宮崎県 PED 豚流行性下痢(PED)発生 串間市2例、都城市10例(+1)、えびの市1例 累計13例	
2014.1.17	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区(新たな地域での発生) ・一貫:23農場(+1) ・繁殖:11農場 ・肥育:25農場(+4) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場(+1) 南薩地区 ・一貫:1農場 ・肥育:3農場(+2) 徳之島地区 ・一貫:1農場 合計:69農場(+7農場)	●韓国で流行した H5N8 高病原性鳥インフルエンザ 2014 年 1 月 16~17 日の韓国で流行した H5N8 高病原性鳥インフルエンザウイルス株は、PB2 および NS 遺伝子が H11N9 ウイルスのもの(2009 年分離)と置き換わったリアソータントである。 Youn-Jeong Lee, et al.. Emerg Infect Dis. 2014 Jun. Novel reassortant influenza A(H5N8) viruses, South Korea, 2014. http://dx.doi.org/10.3201/eid2006.140233 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 4 名 (1) 35 歳男性、上海、1 月 01 日発症、重篤。 (2) 41 歳男性、浙江省杭州市、1 月 05 日発症、重篤。 (3) 48 歳男性、広東省仏山市、1 月 02 日発症、重篤。 (4) 55 歳男性、広東省東莞市、1 月 01 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_17/en/index.html
2014.1.16	●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 串間市2例、都城市9例(+3)、えびの市1例 累計12例	●北朝鮮 口蹄疫「O」平壤市順安区域 牛 729 頭飼養、6 頭発症 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 3 名 (1) 29 歳男性、浙江省杭州市、1 月 02 日発症、重症。 (2) 58 歳男性、浙江省杭州市、1 月 06 日発症、重篤。 (3) 50 歳男性、福建省晋江市、1 月 05 日発症、重篤。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_16/en/index.html ●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 型) 山東省、高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 型) 発生。サーベイランスで発見、死亡鳥なし。農産物市場 2 か所で、合計 20 例、2,310 羽殺処理。 ●中国 高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 型) 山東省、高病原性鳥インフルエンザ(H5N2 型) 発生。サーベイランスで発見、死亡鳥なし。農産物市場 2 か所で、合計 20 例、2,310 羽殺処理。
2014.1.15		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 6 名 (1) 34 歳男性、浙江省寧波市、1 月 01 日発症、重症。 (2) 78 歳男性、浙江省義烏市、1 月 03 日発症、重篤。 (3) 59 歳女性、浙江省寧波市、1 月 05 日発症、

		重篤。 (4) 46 歳男性、広東省仏山市、1 月 06 日発症、重篤。 (5) 41 歳女性、浙江省寧波市、1 月 07 日発症、重症。 (6) 28 歳女性、広東省仏山市、1 月 08 日発症、軽症。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_15/en/index.htm ●韓国(高病原性鳥インフルエンザ H5N8)アウトブレイク発生。7 羽死亡、21,173 羽殺処理。 ●ベトナム(低病原性 H7 型) 生鳥市場で確認 2 例。
2014.1.14	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区(新たな地域での発生) ・一貫:22農場(+2) ・繁殖:11農場 ・肥育:21農場(+3) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場(+1) 南薩地区 ・一貫:1農場 ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 合計:60農場(+6農場)	●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 5 名 (1) 58 歳女性、上海市、1 月 01 日発症、重篤。 (2) 56 歳男性、上海市、1 月 06 日発症、重篤。 (3) 75 歳女性、浙江省諸暨市、1 月 01 日発症、1 月 9 日死亡。 (4) 29 歳男性、広東省広州市、1 月 03 日発症、重篤。 (5) 76 歳男性、広東省深セン市、1 月 03 日発症、安定。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_14/en/index.html
2014.1.13		●香港 鳥インフルエンザ H7N9 鳥インフル 死者 2 人目 男性(65)、死亡。1 月 3 日発症、1 月 7 日入院、重篤。1 月 13 日死亡。香港での H7N9 型感染による死者は計 2 人。男性は今月初め、隣接するシンセン(中国広東省)を訪問。香港に戻った直後発症、重体だった。 ●中国(高病原性鳥インフルエンザ H5N1)湖北省でアウトブレイク発生、3,200 羽死亡、46,800 羽殺処理。 ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 患者 6 名 (1) 54 歳男性、江蘇省南京市、12 月 28 日発症、重症。 (2) 79 歳女性、浙江省嘉興市、1 月 02 日発症、重篤。 (3) 30 歳男性、浙江省寧波市、1 月 02 日発症、重篤。 (4) 59 歳女性、広東省仏山市、12 月 29 日発症、軽症。 (5) 42 歳女性、広東省仏山市、1 月 05 日発症、軽症。 (6) 38 歳男性、福建省泉州市、1 月 03 日発症、1 月 10 日死亡。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_13/en/index.html
2014.1.10	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区(新たな地域での発生) ・一貫:22農場(+2) ・繁殖:11農場 ・肥育:21農場(+3)	

	曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:3農場(+1) 南薩地区 ・一貫:1農場 ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 合計:60農場(+6農場)	
2014.1.9		●1/8-9 ベトナム HPAI(H5N1 型)4 件のアウトブレイク報告。2,600 羽死亡、7,187 羽殺処理。 ●カナダ 鳥インフルエンザ H5N1 ウイルス感染患者 1名確認。 12 月 27 日発症、1 月 3 日死亡。12 月 6 から 27 日まで中国北京を訪問し、27 日にカナダに帰国。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_09_h5n1/en/index.html http://alberta.ca/release.cfm?xID=3565183693F2C-9E0D-1406-AF11D53248E7B8B2 ●中国 H7N9 型鳥インフルエンザ 浙江省 中国本土の同型 AI 感染者計 153 人(うち死亡 48 人。)
2014.1.8	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区(新たな地域での発生) ・一貫:20農場(+7) ・繁殖:11農場 ・肥育:18農場(+4) 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:2農場(+1) 南薩地区 ・一貫:1農場 ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 合計:54農場(+12農場) ●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 串間市 2 例、都城市 5 例(+1)、えびの市 1 例 累計 8 例	●ウクライナ アフリカ豚コレラの発生(2例目) ルハーンシク州の川(ロシアとの国境付近) 死亡イノシシ発見。 ●北朝鮮 口蹄疫 O 型 平壤市寺洞区域 牛 3,280 頭発症、369 頭死亡 ・平壤市, 黄海北道内の 17 県に拡大
2014.1.7	●宮崎県 伝染性胃腸炎(TGE)発生 川南町(1 農場)、西都市(1 農場)	●台北 AIH7N9 型 中国江蘇省在住、86 最男性、中国・台湾ツアー中に発症、12/24 に入院・重篤。 CDC 発表。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_07/en/index.html
2014.1.6		●中国 鳥インフルエンザ H7N9 型 広東省 62 最男性、12 月 11 日発症、重篤。 広東省 38 最男性、12 月 09 日発症、重篤。 National Health and Family Planning Commission 発表。 http://www.who.int/csr/don/2014_01_06/en/index.html ●中国 鳥インフルエンザ H7N9 広東省、39 歳男性、2013.12.15.重症患者 死亡。(中国での死者は 47 人)
2014.1.4	●鹿児島県 豚流行性下痢(PED)発生 肝属地区 ・一貫:13農場(+2) ・繁殖:11農場(+3)	

	・肥育:14農場 曾於地区(新たな地域での発生) ・一貫:1農場(+1) 南薩地区 ・一貫:1農場(+1) ・肥育:1農場 徳之島地区 ・一貫:1農場 合計:42農場(+7農場) ●宮崎県 豚流行性下痢(PED)発生 串間市2例、都城市4例、えびの市1例 累計7例	
2014.1.2		●中国 口蹄疫(A型) 中国チベット自治区シガツェ地区、牛と羊発生。同自治区で昨年9月に発生した事例の続報。対策として淘汰や施設の消毒実施などに対応、ワクチン接種は未実施。チベット自治区では、2013年に14例のA型口蹄疫発生報告。2013年9月以来、4カ月ぶりの発生。 (シガツェ地区:ギャンツェ県 Baisha 村) ※発症原因:不明又は調査中、牛(飼育頭数12頭・症例数7頭・死亡数0頭・淘汰数12頭・と畜数0頭) 羊(飼育頭数33頭・症例数0頭・死亡数0頭・淘汰数33頭・と畜数0頭)